

地域経済分析システム (RESAS) による 施策立案に向けて



令和2年度「RESASを活用した施策立案支援事業」(東北経済産業局)

1. はじめに
 - ・角田市の概要と財政状況
 - ・RESAS活用の背景と進め方
2. RESASによる現状分析
3. 課題の導出と想定される仮設
4. ロジックツリーによる要因の分解
 - ・テーマ①「角田市に住み続けたくない若者」
 - ・テーマ②「進学により流出し、戻ってこない若者」
 - ・テーマ③「働きたい場所が地元がない若者」
5. 要因の分析とクロスSWOT分析
6. かくだワークショップでの共有
7. 注力テーマの設定
8. 取り組みの振り返りと今後に向けて



角田市の概要

宮城県南部に位置し、東北地方の中でも温暖な気候。盆地状の地勢になっており、阿武隈川が南北に貫流、流域に肥沃な耕土を有し、森林と農地が全体の7割を占める。

古来から信仰心が篤い地域であり、南西部に斗蔵山、北西部に高蔵寺や阿弥陀堂など、国指定重要文化財が分布している。電気・自動車部品メーカーなどの企業が立地し、宇宙航空研究開発機構のエンジン燃焼実験等、多様な産業が集積している。



第5次長期総合計画の主要な施策

人と地域が輝く 田園交流都市 かくだ

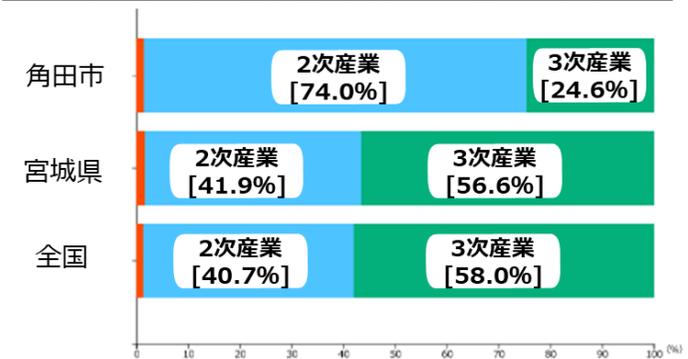
- 定住人口3万人の確保
- 交流人口100万人都市への挑戦

人口減少が進んでいる中、子育て支援の充実、教育環境や快適な住環境を整備するとともに、移住・定住支援策に取り組み定住人口の確保をはかってきた。また、地域資源を活かし、多くの人々を「おもてなしの心」により迎え入れ、交流・連携を最大限に発揮することにより、交流人口100万人都市を目指している。

●戦略的産業振興

産業分野においては、新たな角田ブランドを構築することにより経済活動を活発にし、総生産額の拡大と雇用の創出、さらに豊かな地域社会の実現に向けて、戦略的な産業振興を進めている。(第5次長期総合計画より抜粋)

2015年 角田市の産業構成割合 (生産額 (総額))



環境省「地域産業連関表」、「地域経済計算」(株式会社価値総合研究所(日本政策投資銀行グループ)受託作成)

財政状況

平成23年度以降、東日本大震災からの復旧復興事業や学校給食センターの建て替え等があり、歳入歳出ともに予算規模が肥大化する一方で、経常収支比率については、平成22年度に一旦80%台に下がったものの、平成23年度以降再び90%台へと上昇し、平成30年度以降は100%を超える状況となっている。

当市の財政状況は、経常的な収入の範囲で支出を賄えることが出来ておらず、ふるさと納税等の臨時的な収入により収支の均衡を保っている状況。(角田市第4次及び第5次行財政集中改革プラン案より抜粋)



角田市第5次行財政集中改革プラン(案)より

なぜRESASを活用しようと思ったのか

▷当市の財政の硬直化を鑑みて、優先的かつ効果的な施策の立案のため、エビデンスに基づいた政策立案(EBPM)の実現が必要である。また、角田市第6次長期総合計画の策定を控えており、RESASを活用し、当市の現状や取り巻く環境などを明らかにすることで、急速に変化する社会の中、限られた資源を有効に活用し、信頼ある行政の展開を目指す取り組みである。



RESASプロジェクトチーム(PT)を結成

RESASの活用をすすめるにあたって、「RESASを活用した施策立案チーム」が結成された。

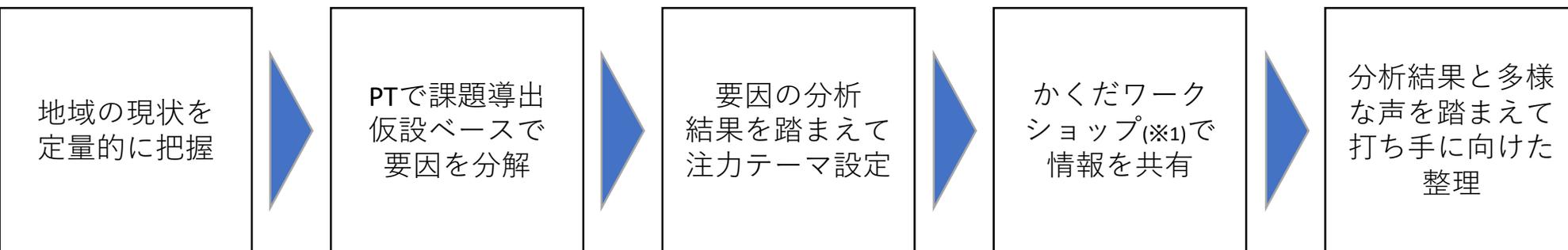
【参加メンバー】

- ▷佐藤克宏 (角田市教育委員会生涯学習課)
- ▷木村美沙 (会計課)
- ▷山田早夏 (総務部 税務課)
- ▷大沼千愛 (市民福祉部 地域包括支援センター)
- ▷菊地浩文 (産業建設部 商工観光課)
- ▷八巻卓 (産業建設部 都市整備課)

およそ入庁10年以下の若手かつ多様な所属から構成された。



進め方



※1角田市長期総合計画の策定にあたって角田市民、角田市にご縁のある方などを対象にしたワークショップ

2010年 109.5%
2013年 103.0%

地域経済循環率(※)

97.0%

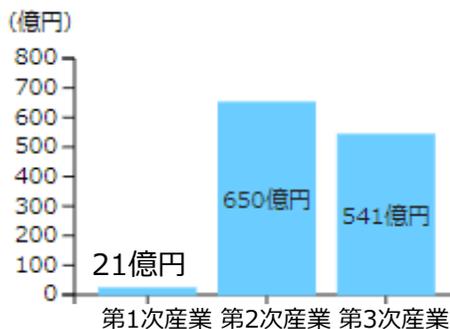
100%を下回っており、域外からの所得移転に頼っている地域経済の傾向となっています。

※生産(付加価値額)を分配(所得)で除した値。地域経済の自立度を示す指標です。

2015年
【近似人口自治体】
白石市 77.2%
美里町 60.1%
阿賀野町 78.4%
行方町 73.3%

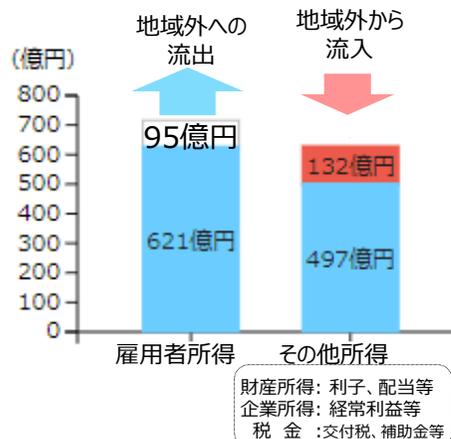
【近隣自治体】
丸森町 36.9%
亘理町 92.2%
名取市 67.3%
柴田町 101.8%
大河原町 103.7%
岩沼市 89.6%
山元町 39.8%

生産(付加価値額)



角田市(2015年)

分配(所得)

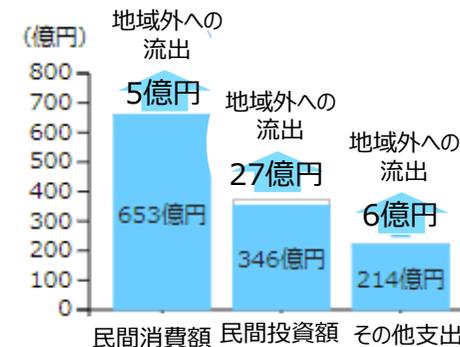


所得からの支出
1,250

→ お金の流れ

(単位: 億円)

支出



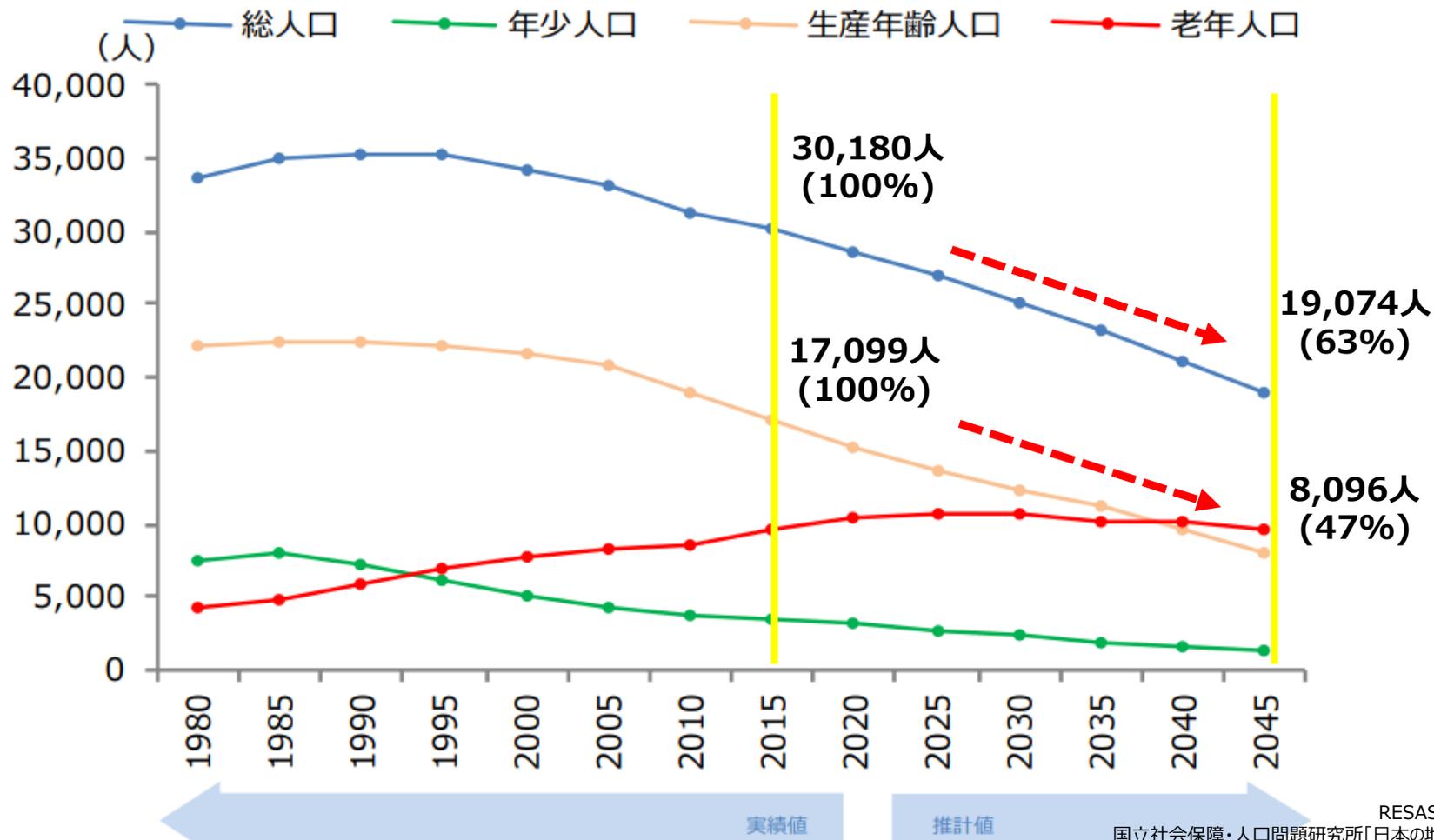
政府支出: 公務、公共事業等
移転出入収支: 地域間の財・サービスの収支

支出による生産への還流
1,213

環境省「地域産業連関表」、「地域経済計算」(株式会社価値総合研究所(日本政策投資銀行グループ)受託作成)

- ◆生産では、「**第2次産業**」を中心に所得を稼いでいる。
- ◆分配では、**域外からの通勤者が多いこと**(雇用者所得の流出)や、**財政移転(交付金等)が多いこと**(其他所得の流入)がわかる。
- ◆支出では、**地域外で買い物や観光消費されていること**(民間消費の流出)、**域外へ設備投資していること**(民間投資の流出)、**域外から財・サービスを受けていること**(其他支出の流出)がわかる。

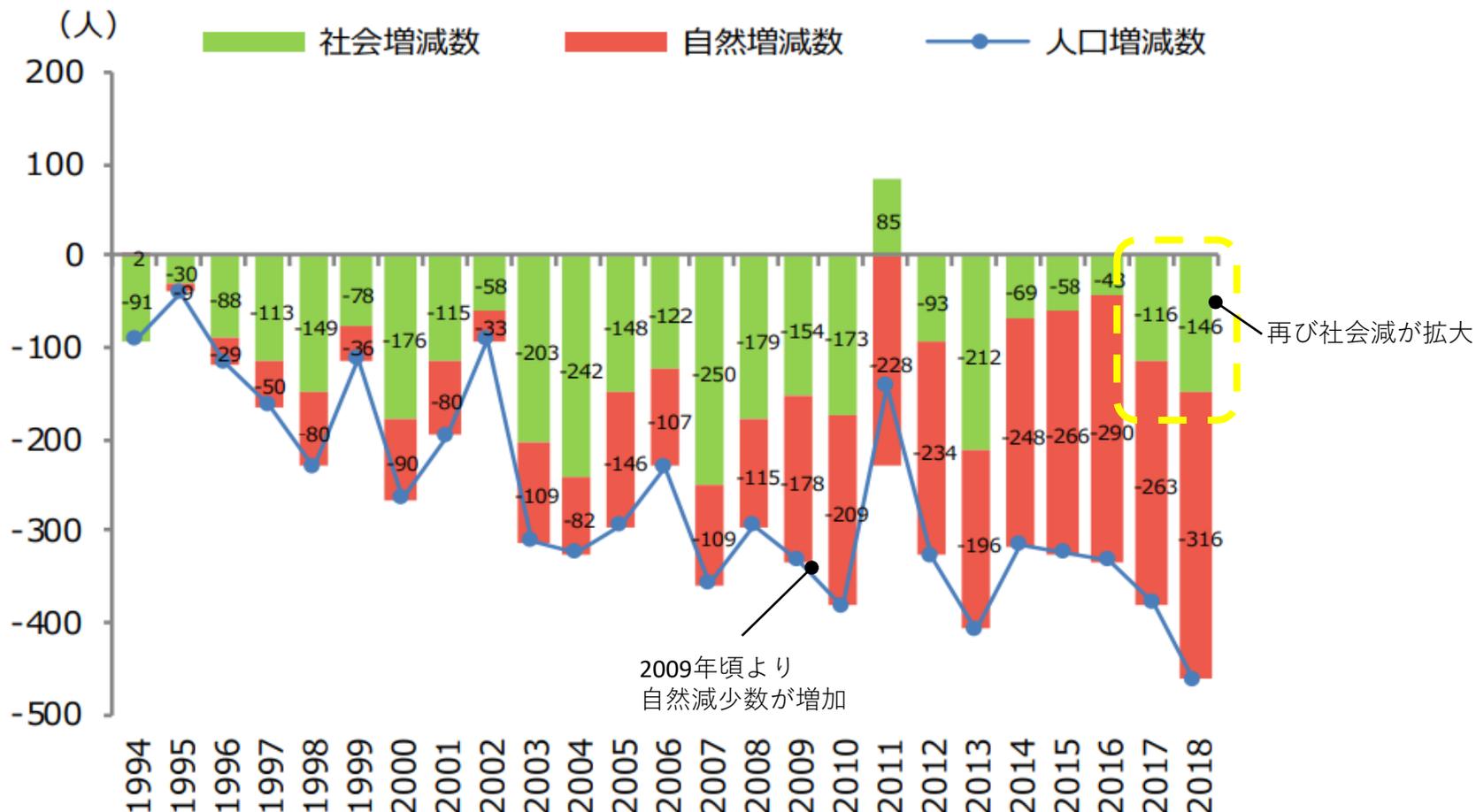
角田市 人口推移



- 2045年の角田市の人口は、約19,000人まで減少する予測である。
- 生産年齢人口で見ると2045年には、2015年の人口から半数以下まで減少する予測である。
- 角田市からの転出者が最も多い柴田町と比較すると、生産年齢人口に大きく減少割合の差が出る。

(柴田町総人口2015年39,525人→2045年31,280人79%、生産年齢人口24,410人→16,753人68%)

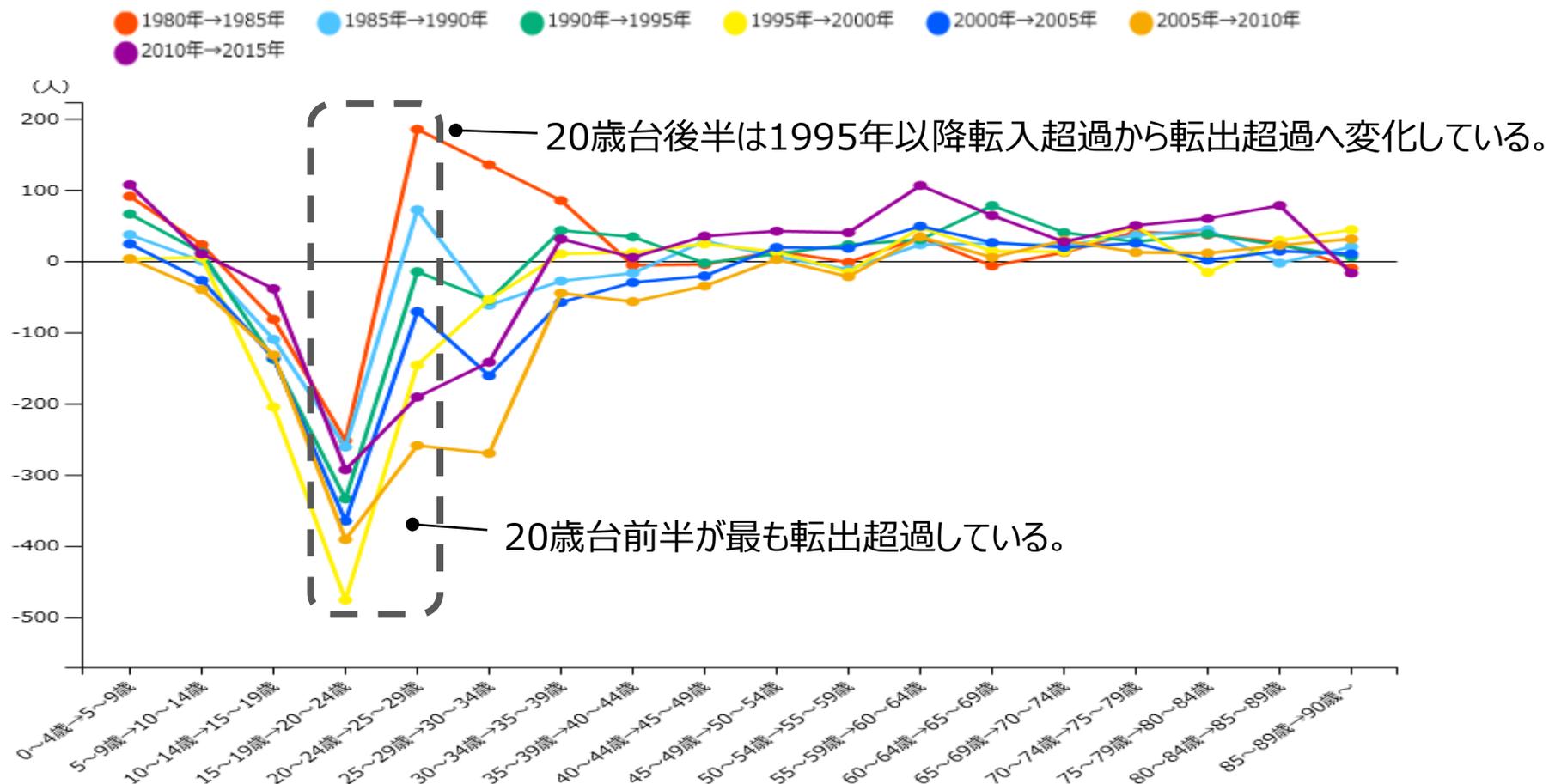
自然増減・社会増減の推移



RESAS総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数調査」再編加工
 【注記】2012年までは年度データ、2013年以降は年次データ。2011年までは日本人のみ、2012年以降は外国人を含む数字。

- 2011年の東日本大震災による影響で一時的に転入超過となったものの**自然減及び社会減により人口は大きく減少し続けている。**
- 社会減少数は2014年からの3年間は減少していたが、2017年より再度伸び始めた。
- 自然減少数は2009年頃より大きく伸びている。
- 近年は年間300名以上人口が減少しており、**2018年は462名、2019年は514名の人口が減少している。**

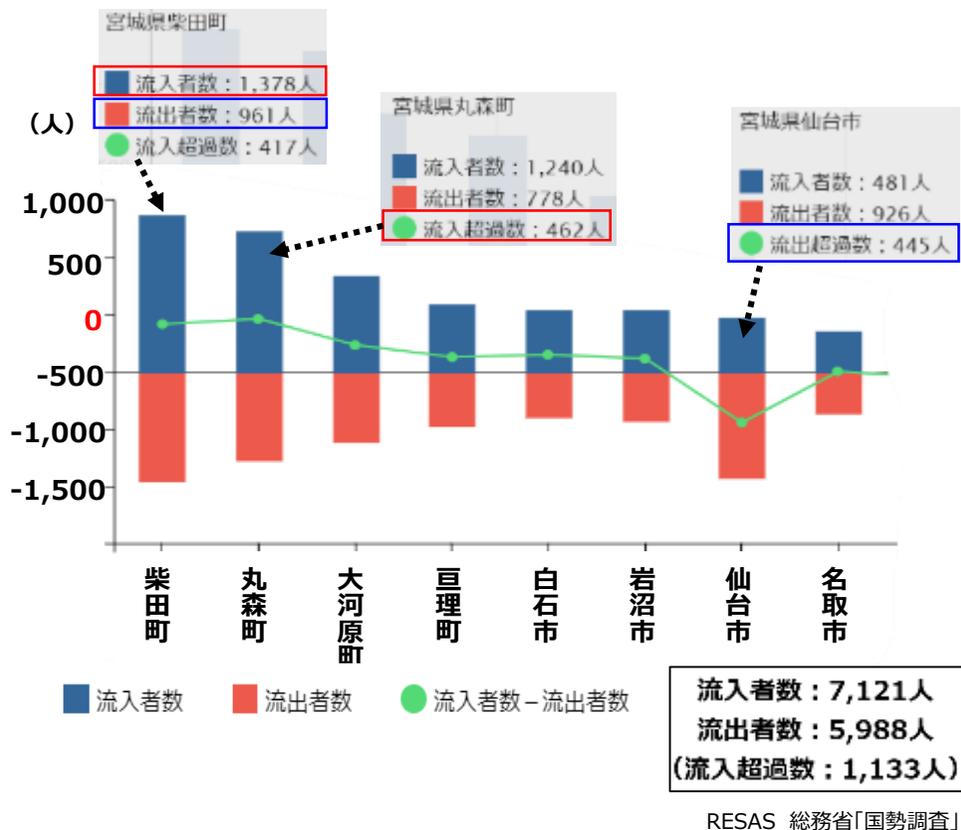
年齢階級別純移動数の時系列分析



RESAS_総務省「国勢調査」、厚生労働省「都道府県別生命表」に基づきまち・ひと・しごと創生本部作成

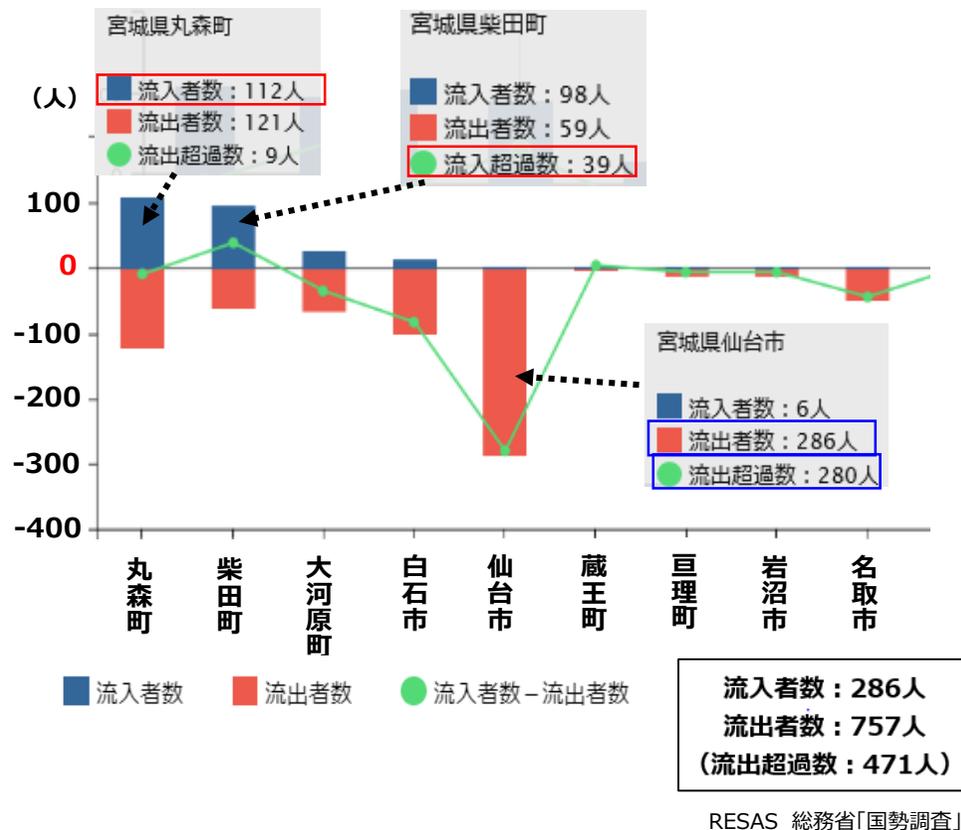
- 全ての年代で**20代前半が最も転出超過**となっている。
- 20代後半は1985年は大きく転入超過していたが、1995年に転出超過に転じている。
- 2015年について、15歳から34歳及び89歳以上を除き転入超過となっている。転入超過数が多いのは5～9歳の108名と60歳台前半の107名である。

通勤者流動状況 2015年



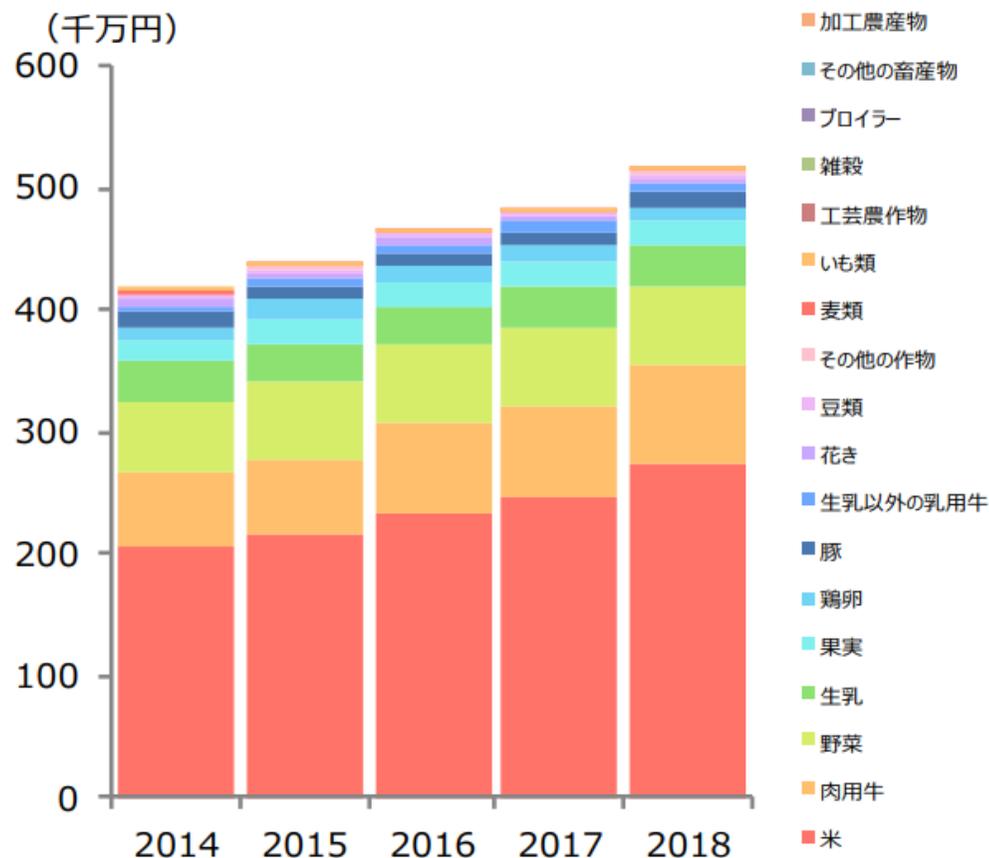
通勤者は、**流入超過**となっている。流入・流出ともに「柴田町」が最も多い。流入超過数は「丸森町」、流出超過数は「仙台市」が最も多い。

通学者流動状況 2015年



通学者は、**流出超過**となっている。流入は「丸森町」が最も多く、流入超過数は柴田町が最も多い。流出数・流出超過数は「仙台市」が最も多い。

農業産出額の推移

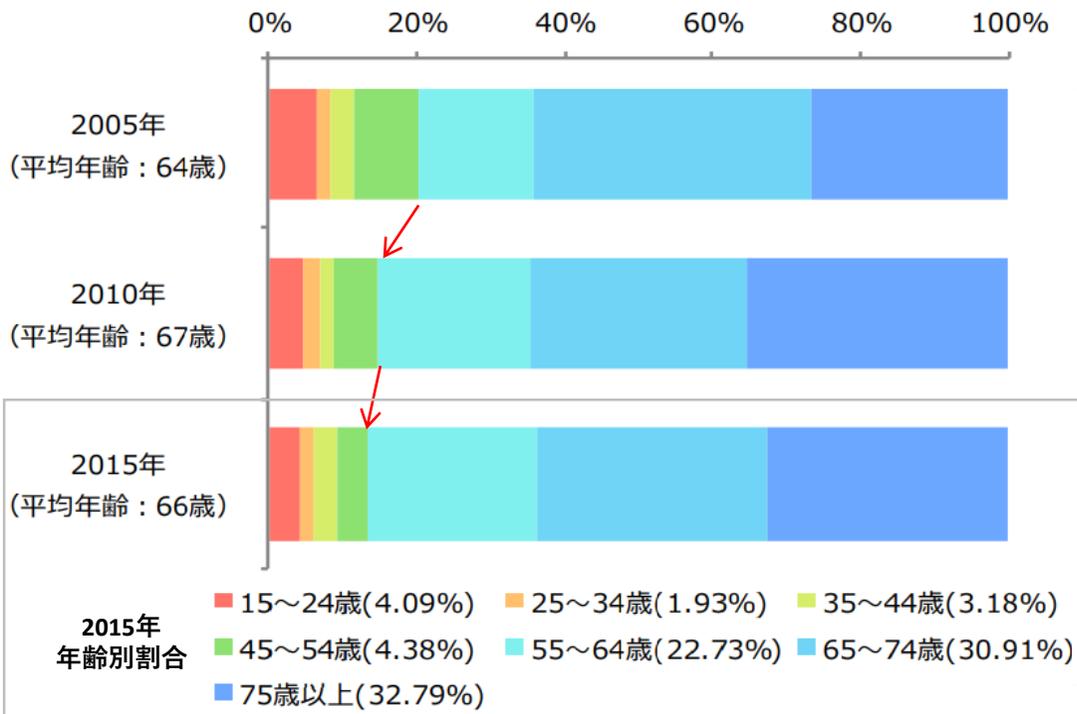


	自治体名	農業産出額総額
1	蔵王町	536千万円
2	角田市	527千万円
3	白石市	481千万円
4	丸森町	466千万円
5	川崎町	297千万円
6	大河原町	190千万円
7	村田町	151千万円
8	柴田町	126千万円
9	七ヶ宿町	104千万円

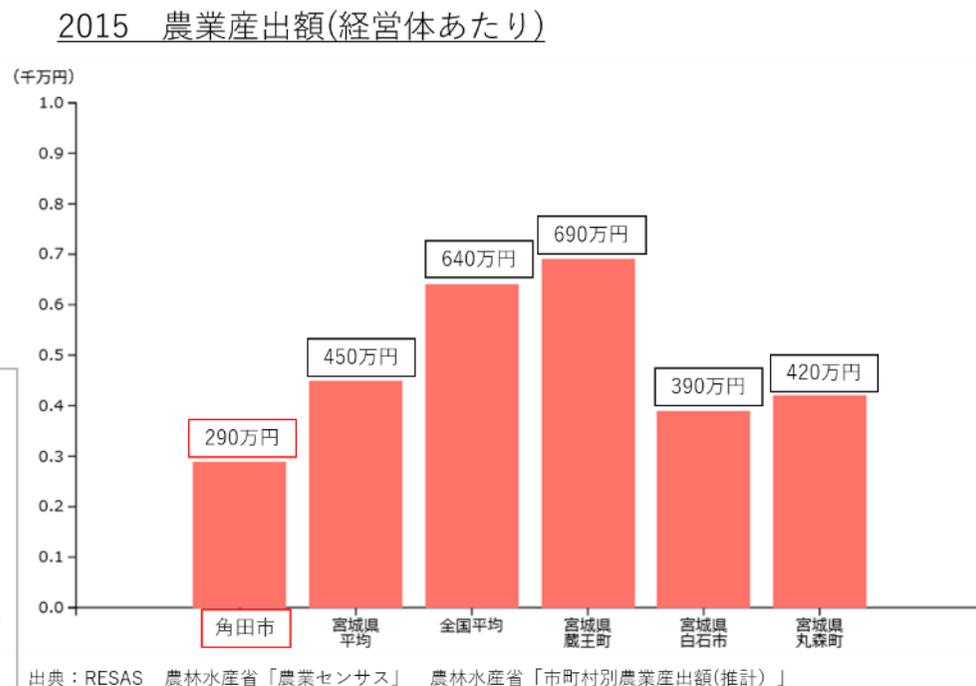
【出典】 農業産出額（都道府県単位） 農林水産省「都道府県別農業産出額及び生産農業所得」
 農業産出額（市区町村単位） 農林水産省「市町村別農業産出額（推計）」
 農業経営体数 農林水産省「農林業センサス」再編加工

- ・広域仙南圏で比較すると、農業産出額は蔵王町に次いで高く、52億7千万円。
- ・主要産出物は「米」、次いで肉用牛、野菜、生乳、果実。

年齢階級別農業就業者比率と平均年齢



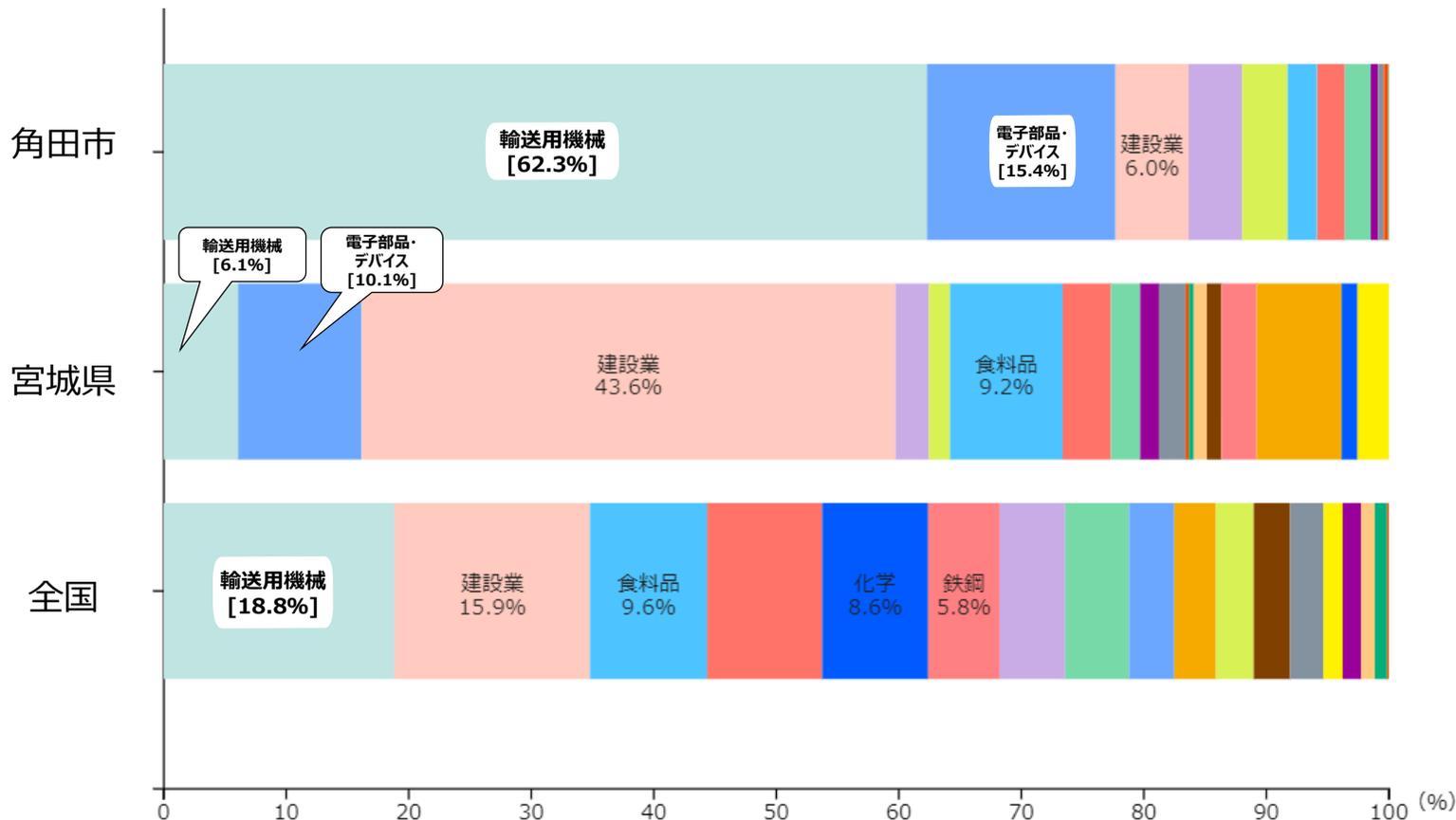
経営体あたり農業産出額（地域間比較）



【出典】 農林水産省「農林業センサス」再編加工
 【注記】 農業就業人口：農業従事者のうち、農業を主として従事した世帯員
 凡例の数値は最新年の数値を指す。

- ・農業経営体数は減少傾向にあり、2005～2015年で2389件→1535件（36%減少）。
- ・自治体産出額は大きいですが、経営体当たりの産出額は290万円と県平均比の64%に留まり、近隣と比較しても低い。
- ・農業就業者高齢化も拡大傾向にあり、55歳以上の割合が2015年には86.43%に。

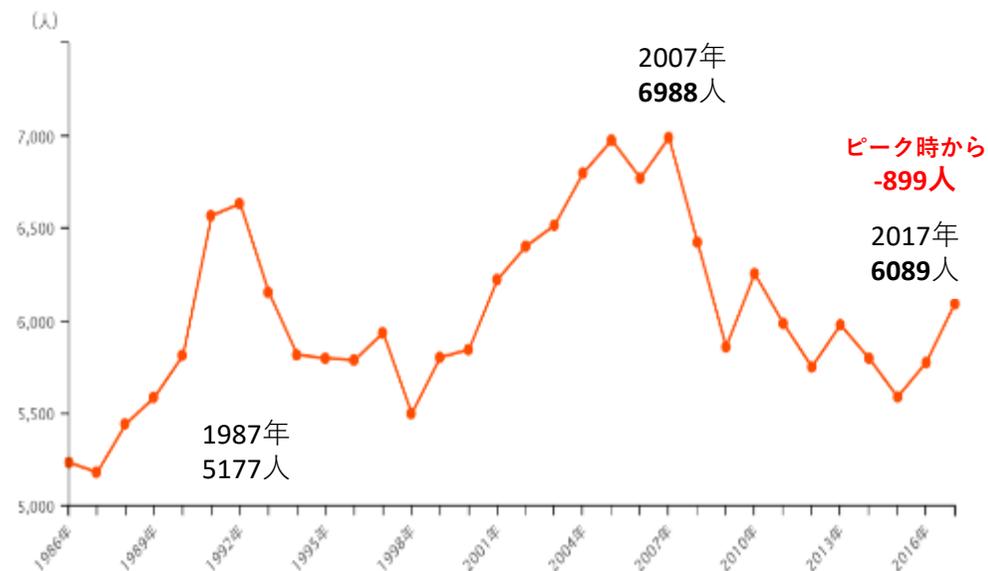
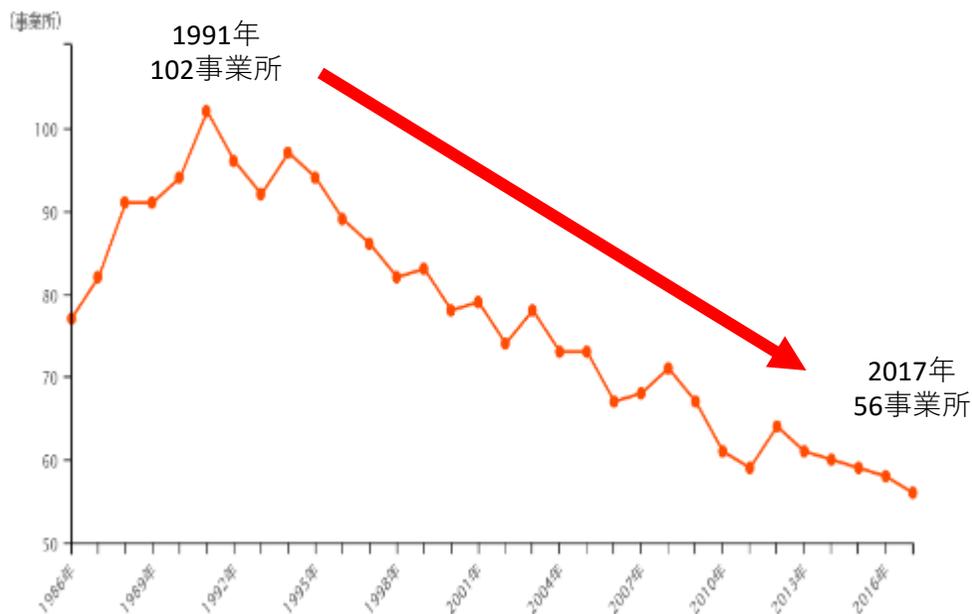
2次産業構成割合（生産額（総額））



【出典】環境省「地域産業関連表」、「地域経済計算」(株式会社価値総合研究所(日本政策投資銀行グループ)受託作成)

- 生産額の産業構成割合として、宮城県・全国平均と比べて**2次産業**の割合が高い。
- 2次産業の中では製造業が中心で、**輸送用機械器具製造業**の割合が60%を超えている。
- 誘致企業を中心に生産額が構成されていることが分かる。

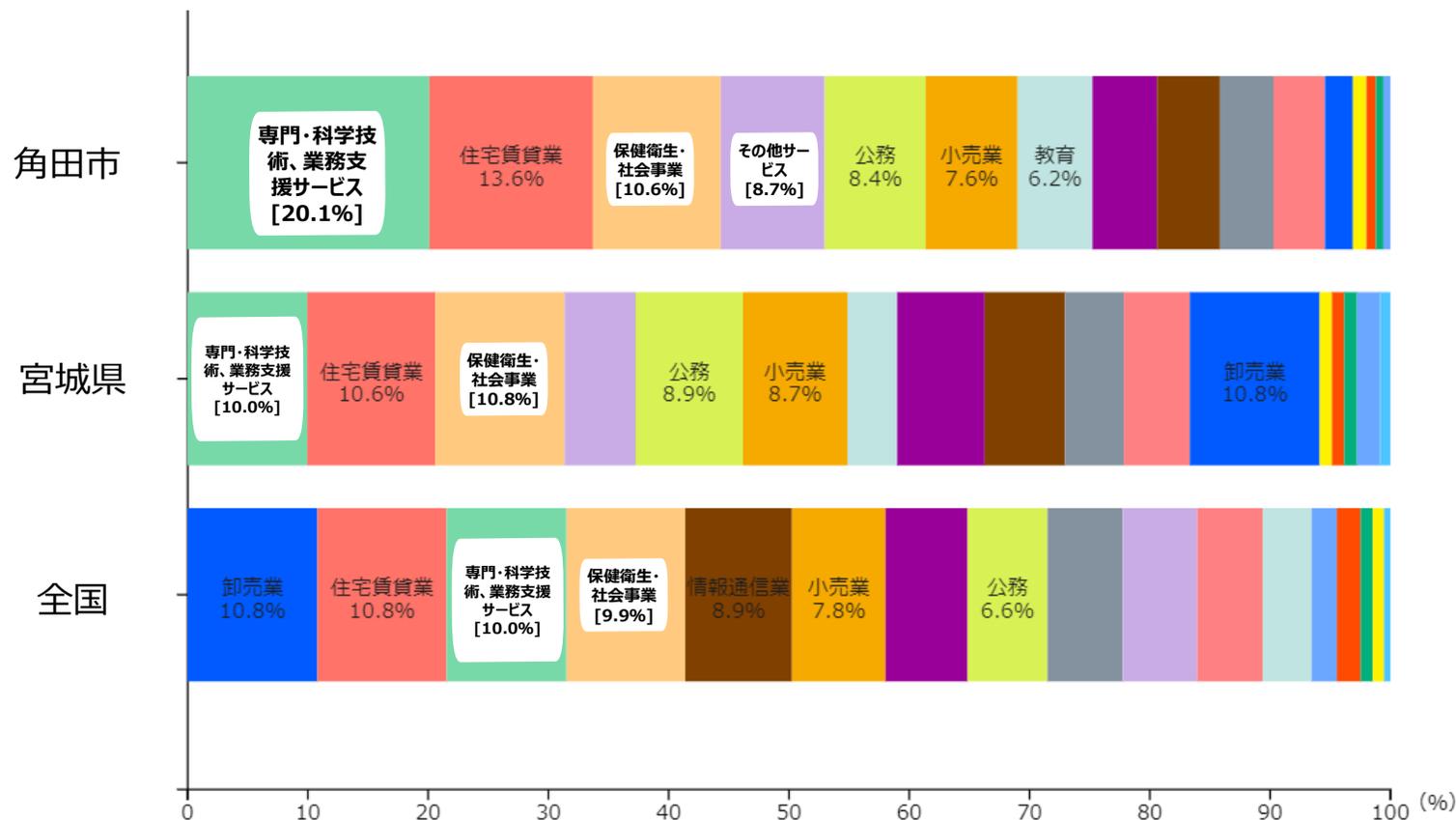
製造業事業所数及び従業員数の推移



RESAS 経済産業省「工業統計調査」再編加工、
 総務省・経済産業省「経済センサス-活動調査」再編加工
 総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数調査」

- 製造業の事業所数については1991年をピークに右肩下がりとなっている。
- 従業員数については2007年から右肩下がりとなっているものの、2016年から持ち直している傾向にある。

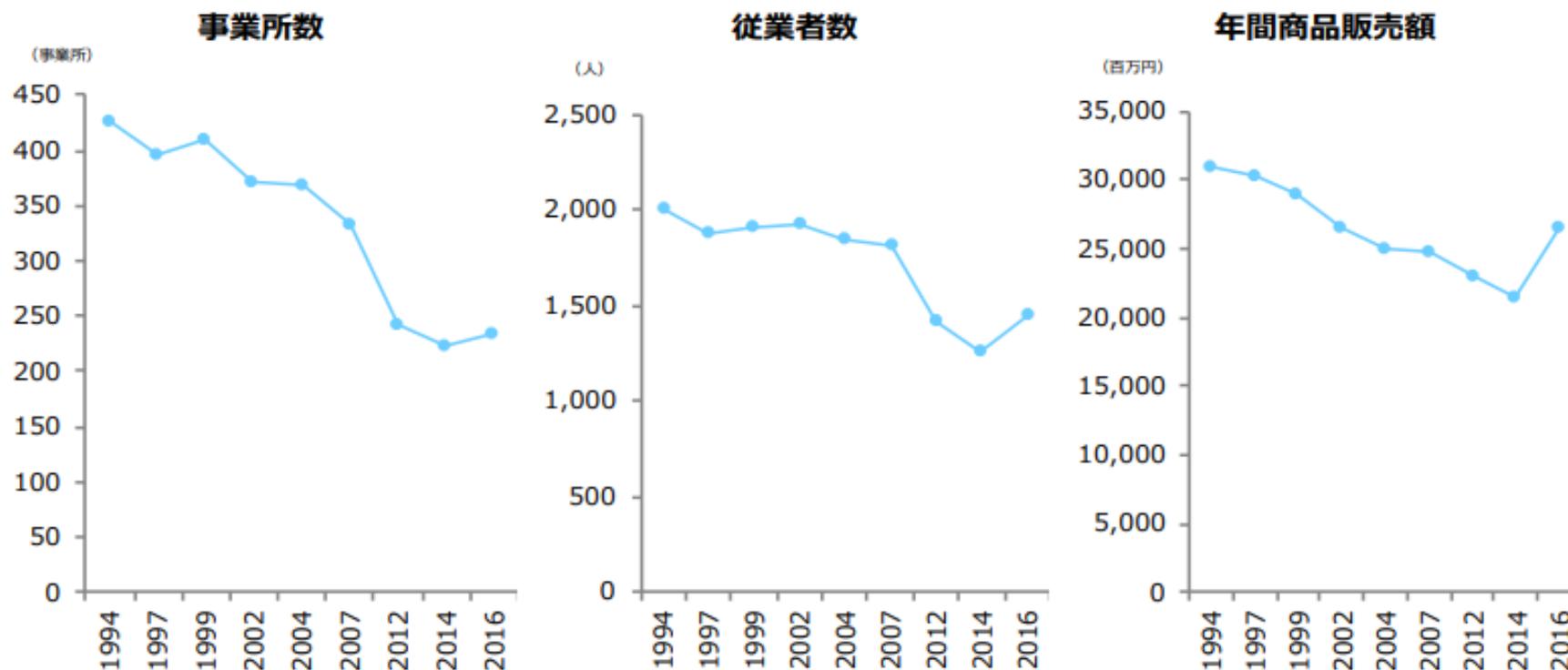
3次産業構成割合（生産額（総額））



【出典】環境省「地域産業連関表」、「地域経済計算」(株式会社価値総合研究所(日本政策投資銀行グループ)受託作成)

- 3次産業の中では専門・科学技術、業務支援サービス業の割合が宮城県・全国平均と比べ約2倍となっている。
- 運輸・郵便、情報通信業、卸売業などは宮城県・全国平均と比べ低い割合である。

小売業の事業所数・従業者数・年間商品販売額の推移



【出典】 経済産業省「商業統計調査」 総務省・経済産業省「経済センサス-活動調査」

【注記】 2007年以降は、日本標準産業分類の大幅改定の影響や、「商業統計調査」と「経済センサス-活動調査」の集計対象範囲の違い等から単純に調査年間（表示年）の比較が行えない。

- 事業所数・従業者数・年間商品販売額ともに減少していたが、2016年上昇。

人口増減率の比較

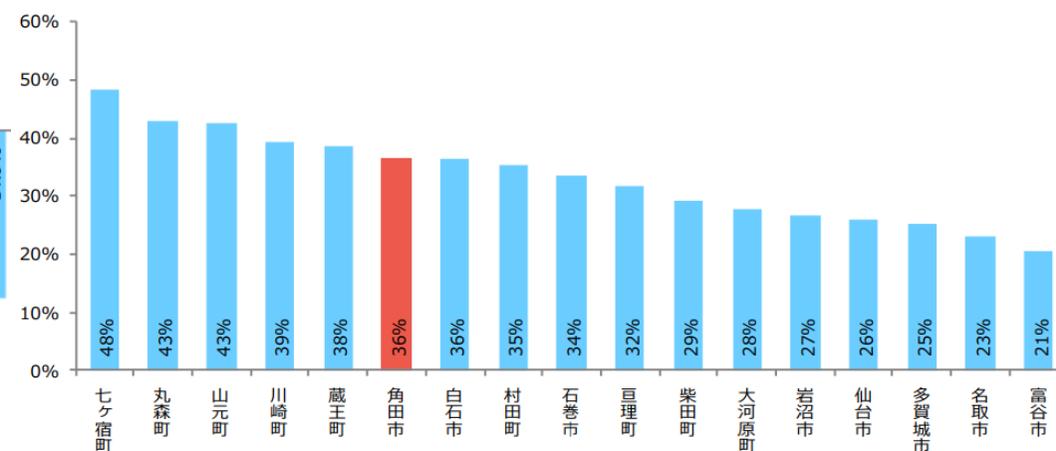
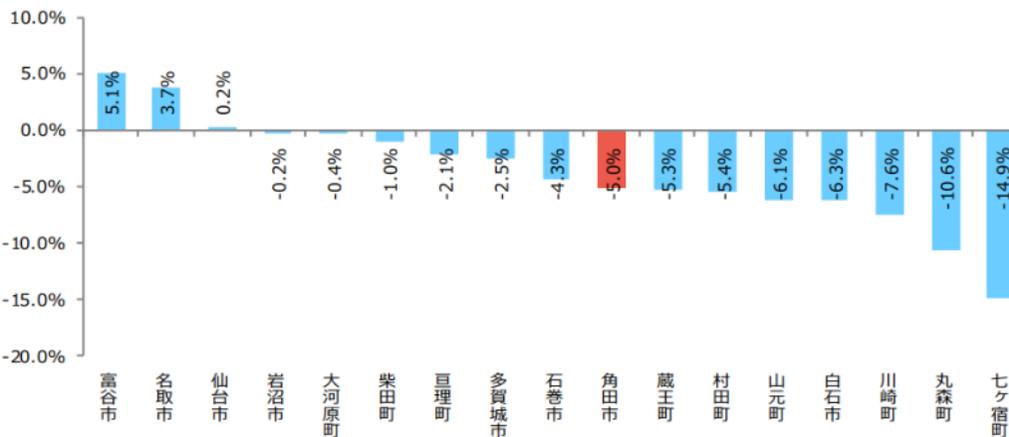
高齢化率の比較

2015年→2020年

2020年

(人口増減率：%)

(高齢化率：%)



【出典】 総務省「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」

- ・角田市の人口増減率は-5%で、県南で比較すると岩沼市・大河原町・柴田町・亶理町に次ぐ割合となっている。
- ・角田市の高齢化率は36%。人口増減率と高齢化に一定の相関関係があるように見える。

RESASによる現状分析 ⑤その他

財政力指数



経常収支比率



実質公債費比率



ラスパイレス指数



将来負担比率



人口あたり職員数



人口1人あたり人件費・物件費等の決算額



【出典】 総務省「地方財政状況調査関係資料（財政状況資料集）」
人口あたり職員数：都道府県の場合は人口10万人、市町村（特別区含む）の場合は人口千人あたりの職員数。

財政指標

財政指標	2018値	都道府県内
財政力指数	0.51	16/35
経常収支比率	103.0%	35/35
実質公債費比率	7.1%	15/35
将来負担比率	105.2%	33/35
人口あたり職員数	8.07人	14/35
人口1人あたり人件費物件費等の決算額	143,619円	16/35
ラスパイレス指数	96.8	27/35

・全国と比較しても経常収支比率及び将来負担比率が大きく下回っている。

- 経済循環率は減少傾向にあるが、近隣市町村と比較しても高い割合を保持。
- 2次産業を中心に所得を生み出しているが、民間所得の流出(95億円)や民間消費及び投資ともに流出傾向(32億円)にある。
- 角田市の人口は少子高齢化に伴い2045年には19,074人まで減少予測。
- 中でも所得の多くを生み出す生産年齢人口は2015-2045年比で47%まで下落の予測。老年人口は市全体の約50%を占める予測。
- 年代別に角田市人口社会増減では若年層、特に20代前半にかけて最も転出が大きくなり、30代以降は転入出が落ち着く傾向が見られる。
- 通勤者は1,133人(最多柴田町)の流入超過、通学者は471人(最多仙台市)の流出超過。
- 1次産業は市全体の付加価値額割合としては低いが、出荷額は米を中心に仙南でもトップクラスを保持。しかし、経営体当たりで見ると、平均を大きく下回っている。
- 2次産業は製造業が中心となり、角田市全体の経済をけん引している。しかし、事業所数は減少傾向にありピークの1991年から半減。従業員数はピークの6,988人から6,089人まで減少した。
- 3次産業は専門・科学技術、業務支援サービス業の割合が高い。商業（小売）について、販売額はピークから16.6%の減。

強み(内的要因)

- A 地域経済をけん引する2次産業...RESAS
- B 高水準の農業の出荷額...RESAS
- C ふるさと納税寄付額県内トップ
- D “JAXA”や誘致企業など研究技術製造業の存在
- E 道の駅開業等による交流人口の拡大

弱み(内的要因)

- a 生産人口の縮小と老年人口拡大...RESAS
高校卒業後の転出や高齢化による死亡者数の増加が要因。
- b 地域で生み出した所得や消費・投資の流出...RESAS
- c 農業経営体産出額の低調（全国比45%）...RESAS
- d 製造業や小売業の事業所数減少傾向...RESAS
- e 児童数減少による市内学校の統廃合

機会(外的要因)

- 1 SDG s を踏まえた持続的発展
- 2 技術革新による地域課題解決への期待
- 3 ICTやSNSによるコミュニケーションの変化
- 4 テレワークや多拠点居住など暮らし方の変化

脅威(外的要因)

- I 人口減少・超高齢化・少子化の進展による社会ニーズの変化
- II 技術革新による産業構造の変化
- III 大規模災害や感染症問題の発生
- IV 財政制約の基での施策推進

**生産年齢人口縮小による
地域経済弱体化**

なぜ生産年齢人口減少が激しいのか…

◎角田市に住み続けたいと思っていない若者たち

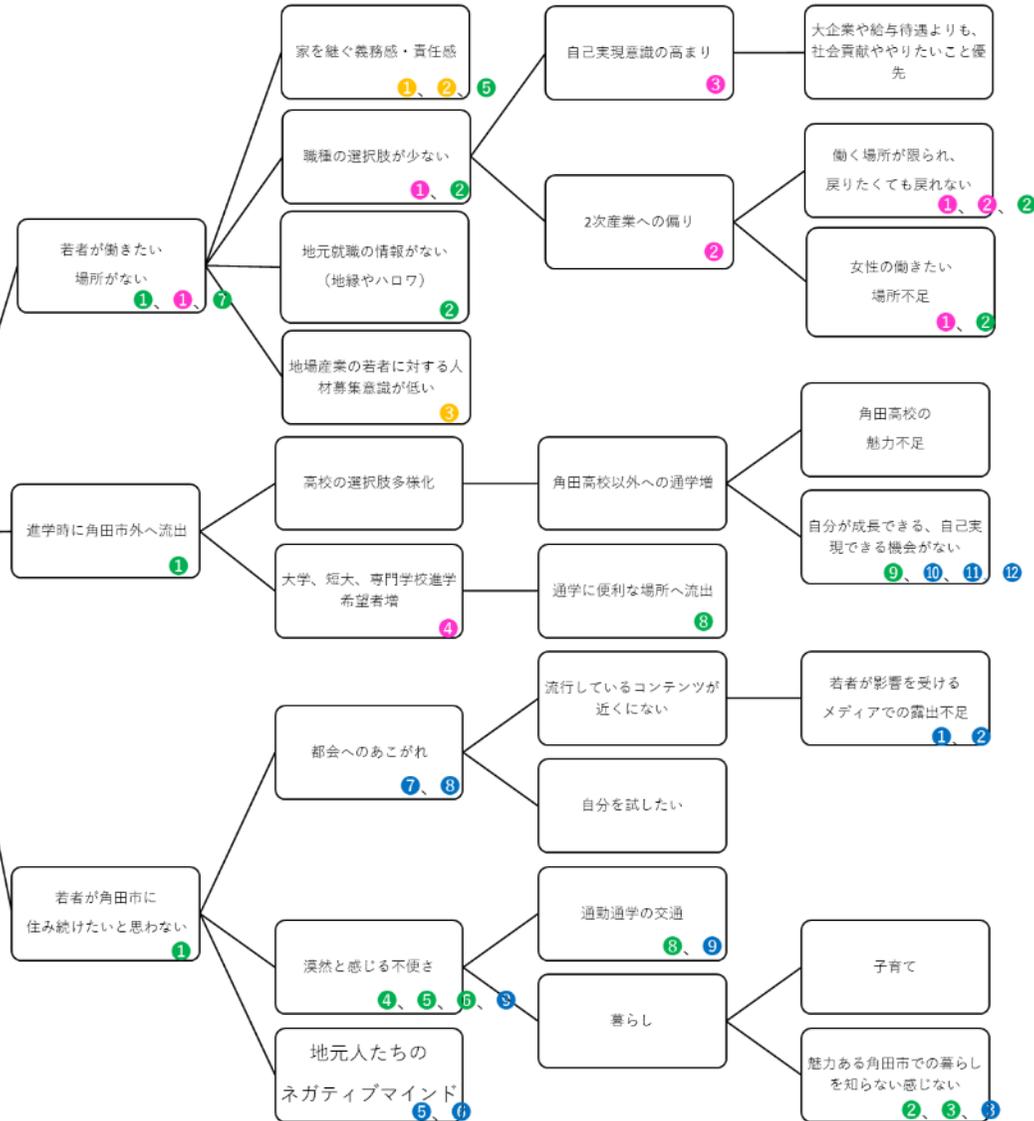
◎若者たちの高等学校や大学等、進学による流出

◎若者が働きたい職場がない

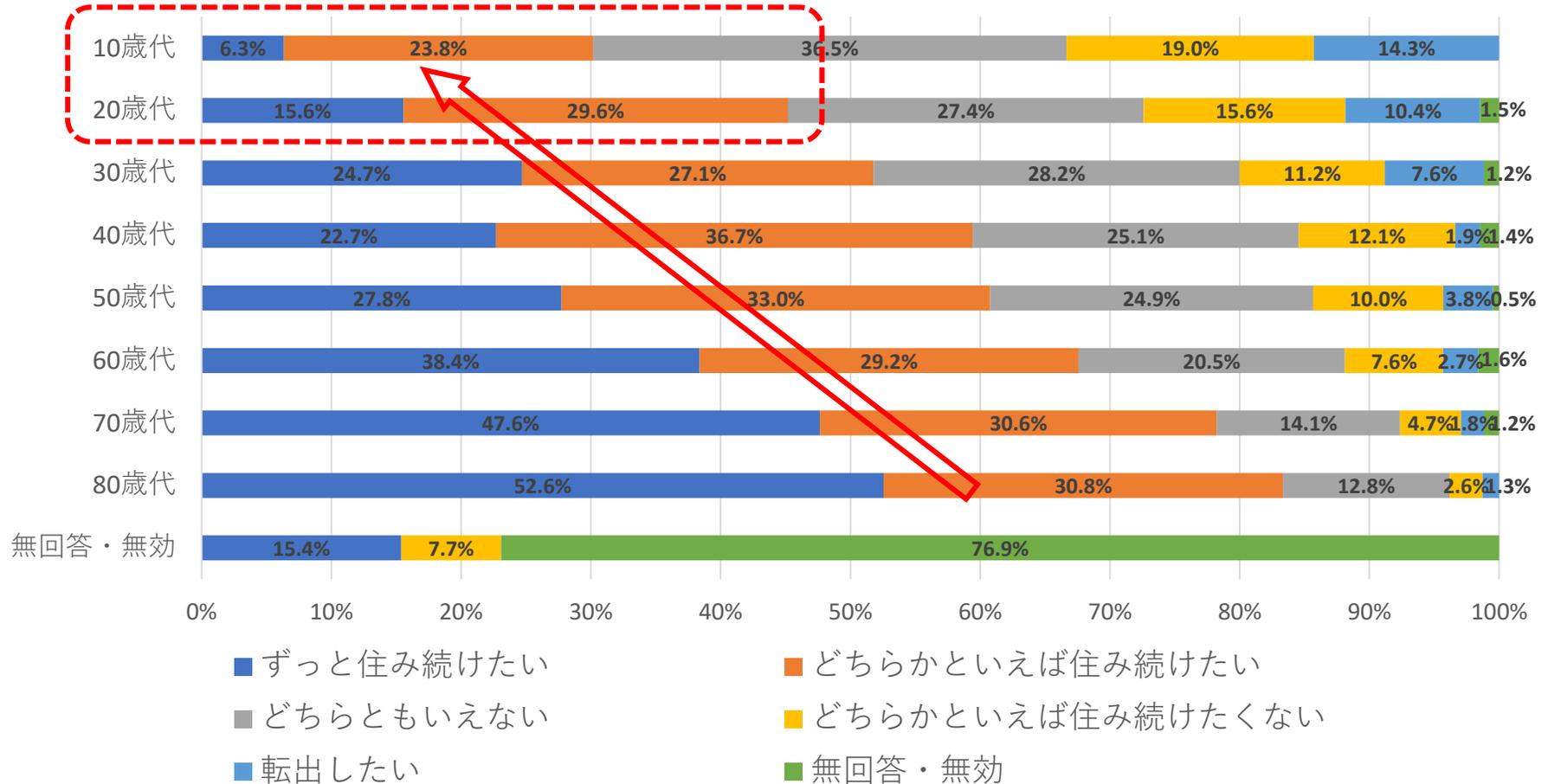
【参考資料 3 参照】（課題解決に向け、本質的な問題がどこにあるのか絞り込む）

- 1次産業 高い産出額と広い農耕面積
- 2次産業 製造業中心の地域経済
- 3次産業 低い割合のサービス産業
- 角田市在住の若者の満足度が低い

角田市の生産年齢人口減少による
地域経済弱体化への懸念



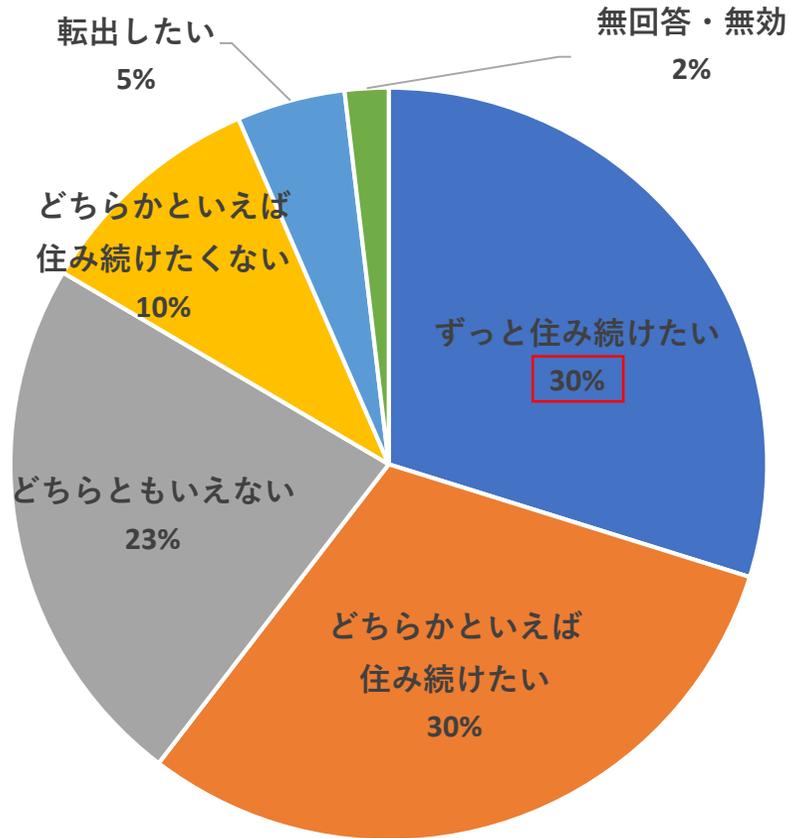
年代別の定住意向



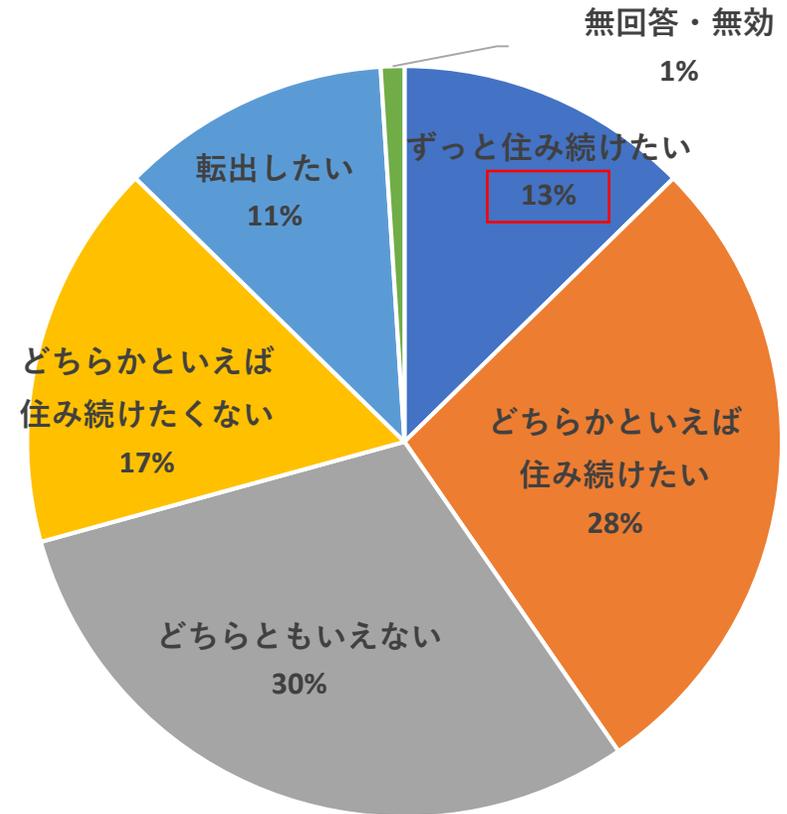
角田市第6次長期総合計画策定のための市民アンケート調査結果より（実施期間：令和2年5月22日～令和2年6月8日）

・若年層になればなるほど、定住意向が低く、特に10～20歳代で顕著である。

定住意向（全年齢）



20歳代以下の定住意向

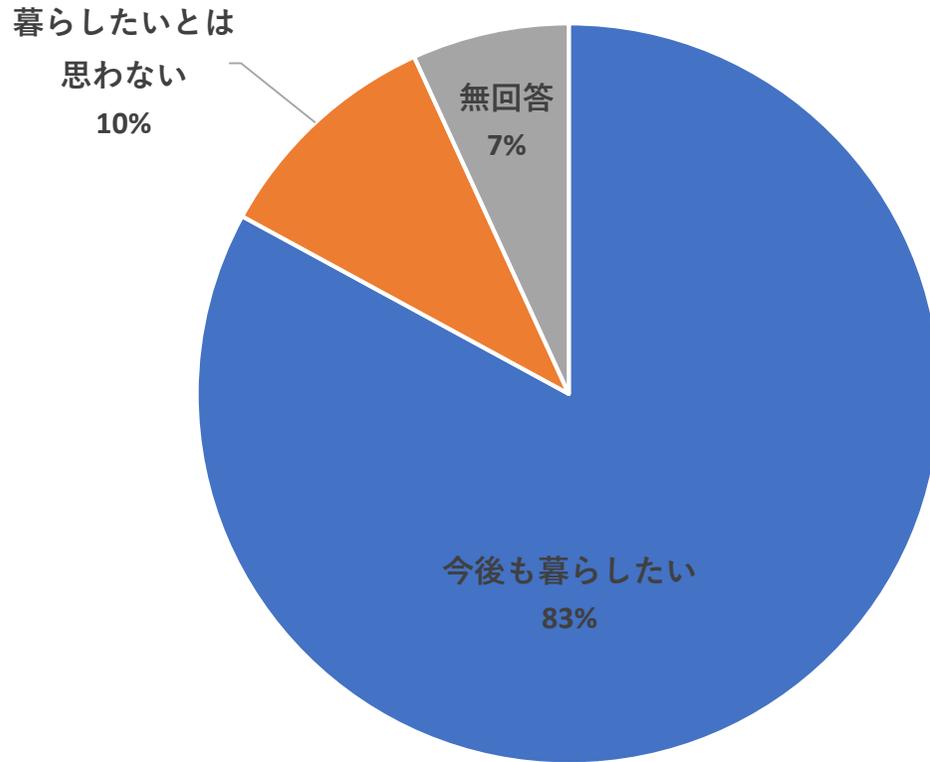


角田市第6次長期総合計画策定のための市民アンケート調査結果より（実施期間：令和2年5月22日～令和2年6月8日）

若者（20歳代以下）の定住意向が、全年齢と比較すると低いことがわかる。
特に「ずっと住み続けたい」という選択肢は、大きく減っていることがわかる。

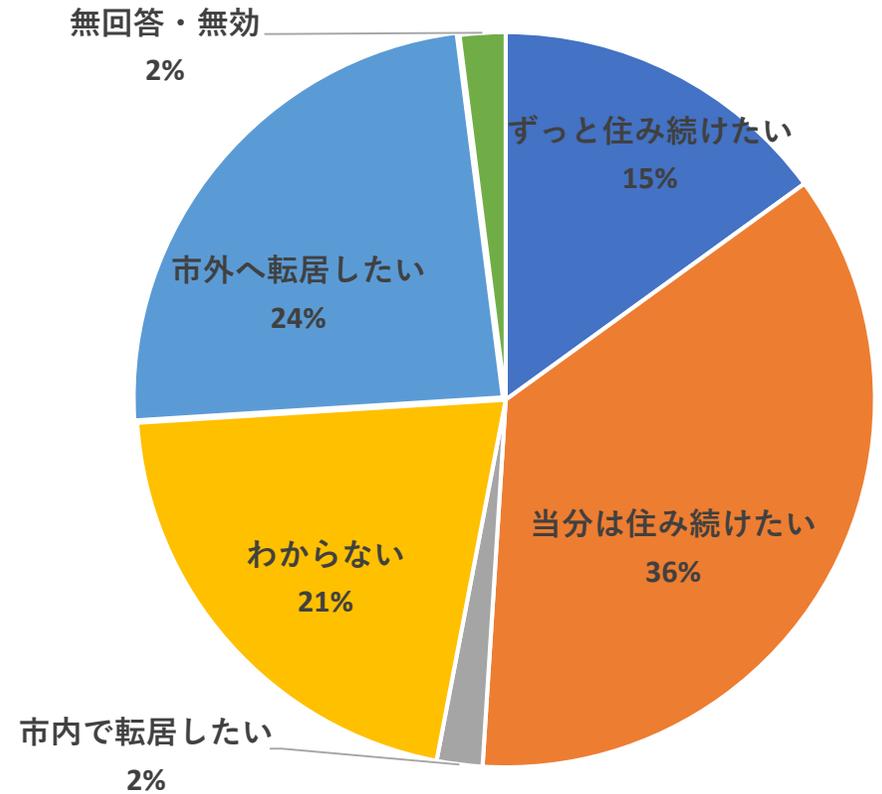
参考 他市町村の定住意向①

富谷市定住意向（20歳代以下）



令和2年度富谷市まちづくり市民アンケート調査報告書より
(調査期間：令和2年7月31日から令和2年8月27日まで)

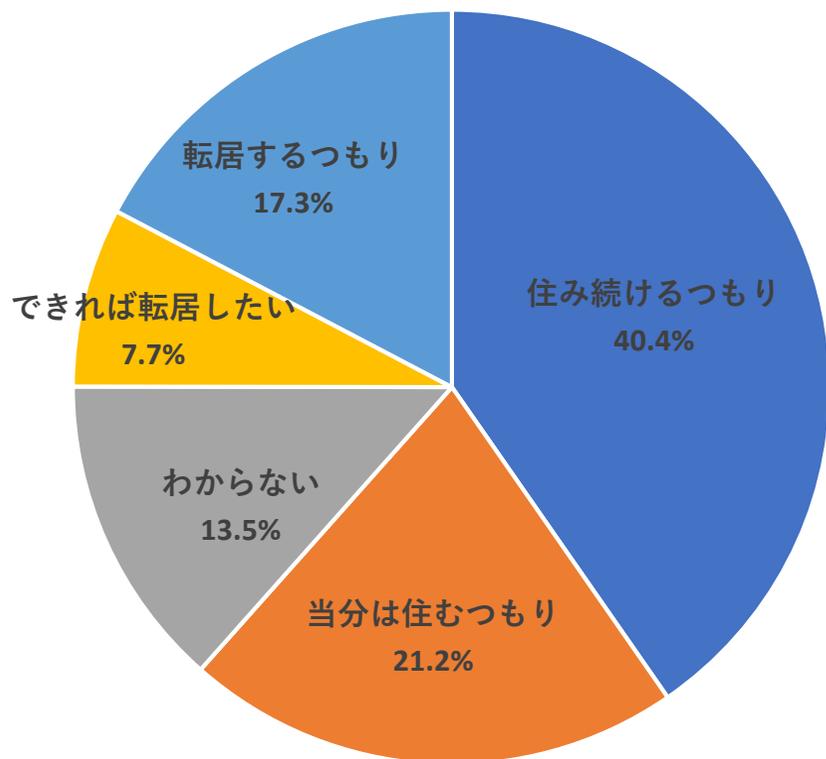
白石市の定住意向（20歳代）



白石市令和2年度地方創生市民アンケート調査結果より
(調査期間：令和2年7月20日から令和2年8月7日まで)

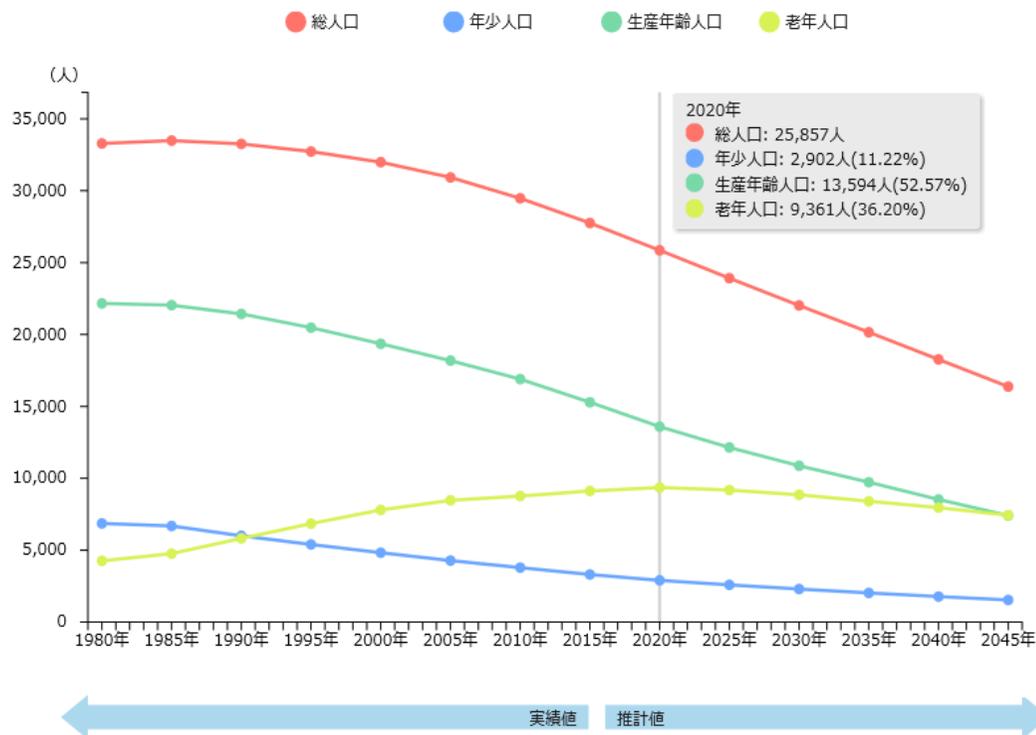
参考 他市町村の定住意向②（山形県長井市）

山形県長井市の定住意向（20歳代）



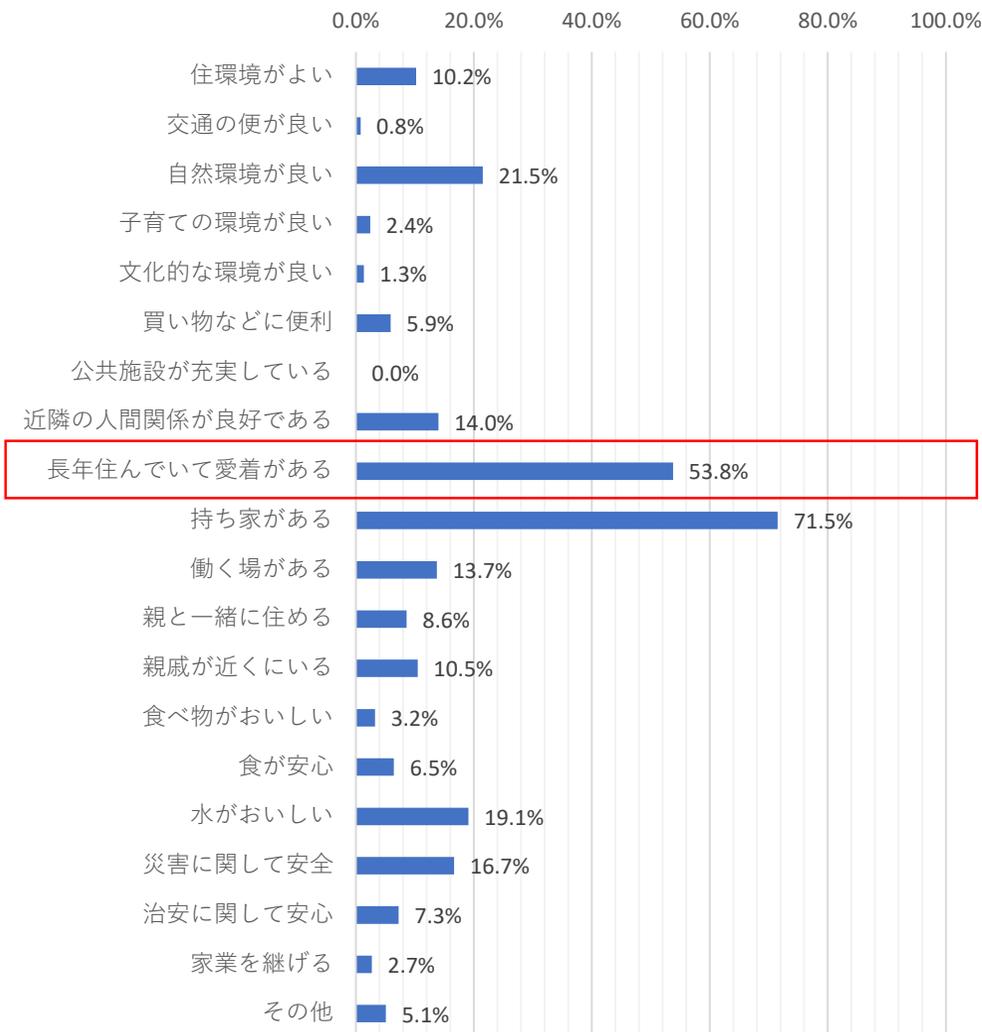
平成28年度長井市市民アンケート調査結果報告より
（調査期間：平成29年1月18日～平成29年2月10日まで）

山形県長井市の人口推移

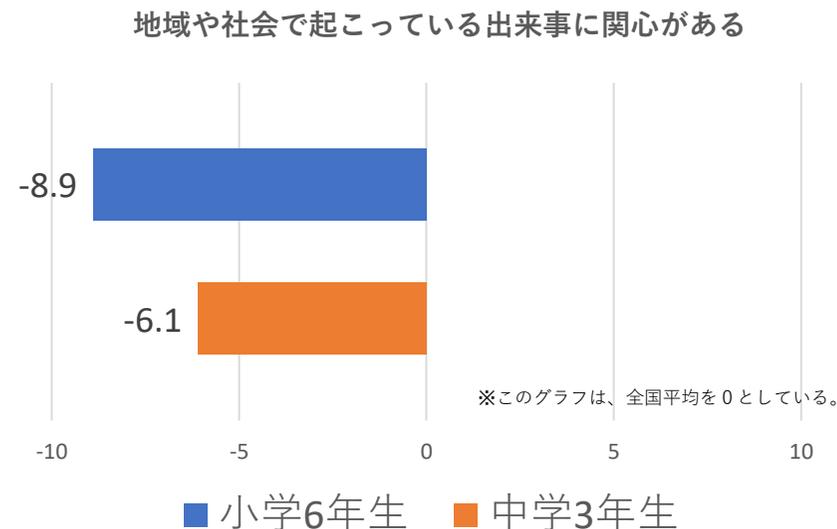


角田市と同程度の人口規模・人口減少予測だが、若者の定住意向の高い自治体もある。

○長井市に住み続けたい理由



○角田市の若者の地元への愛着

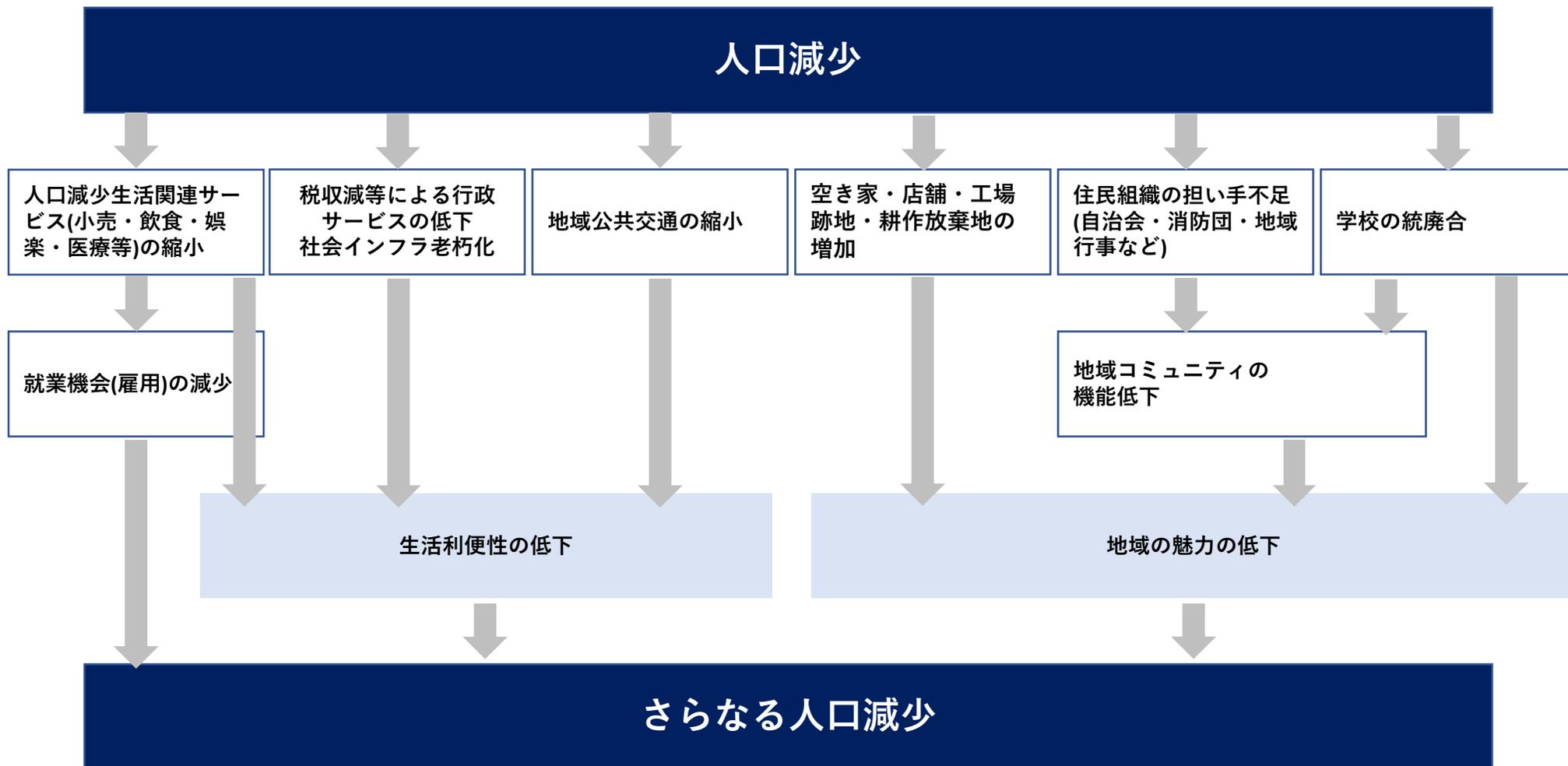


「角田市学力向上ゆめプラン」より

長井市に住み続けたい理由では、「長年住んでいて愛着がある」という項目が2位となっており、地元への愛着が定住意向に影響を与えている一因と思われる。

角田市の若者の地元への愛着に関しては、角田市の小学6年生・中学3年生が「地域や社会で起こっている出来事に関心」が全国平均を大きく下回っている調査結果から地元への愛着が低い傾向にあると思われる。

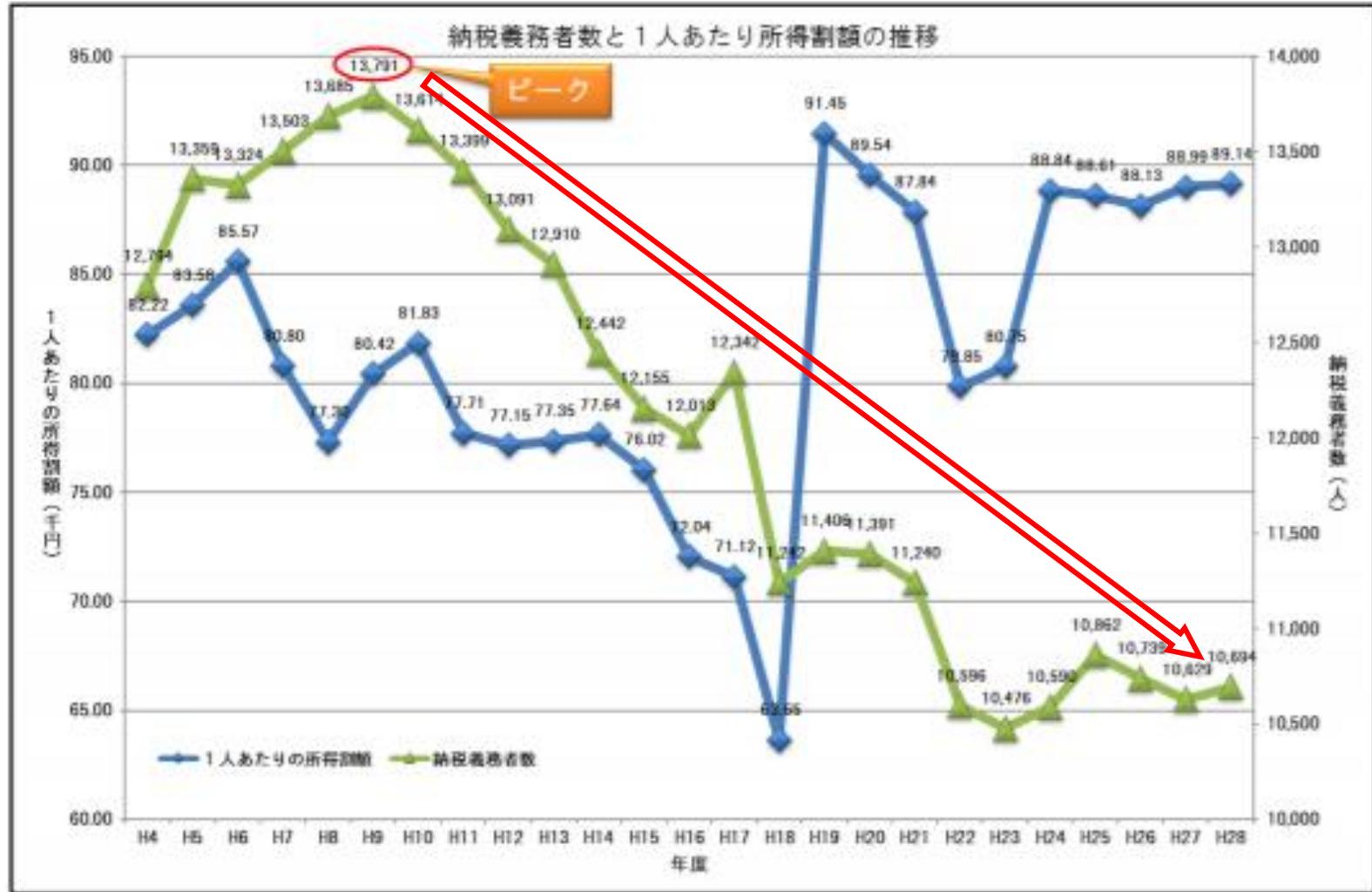
人口減少による影響の整理



平成26年国土交通白書1章2節より引用

・人口減少を止める議論ではなく、住み続けたい「まち」であるためにサービスやコミュニティ、地域の魅力を整えていく必要がある。

■ 個人市民税の納税義務者と1人あたりの所得割額の推移

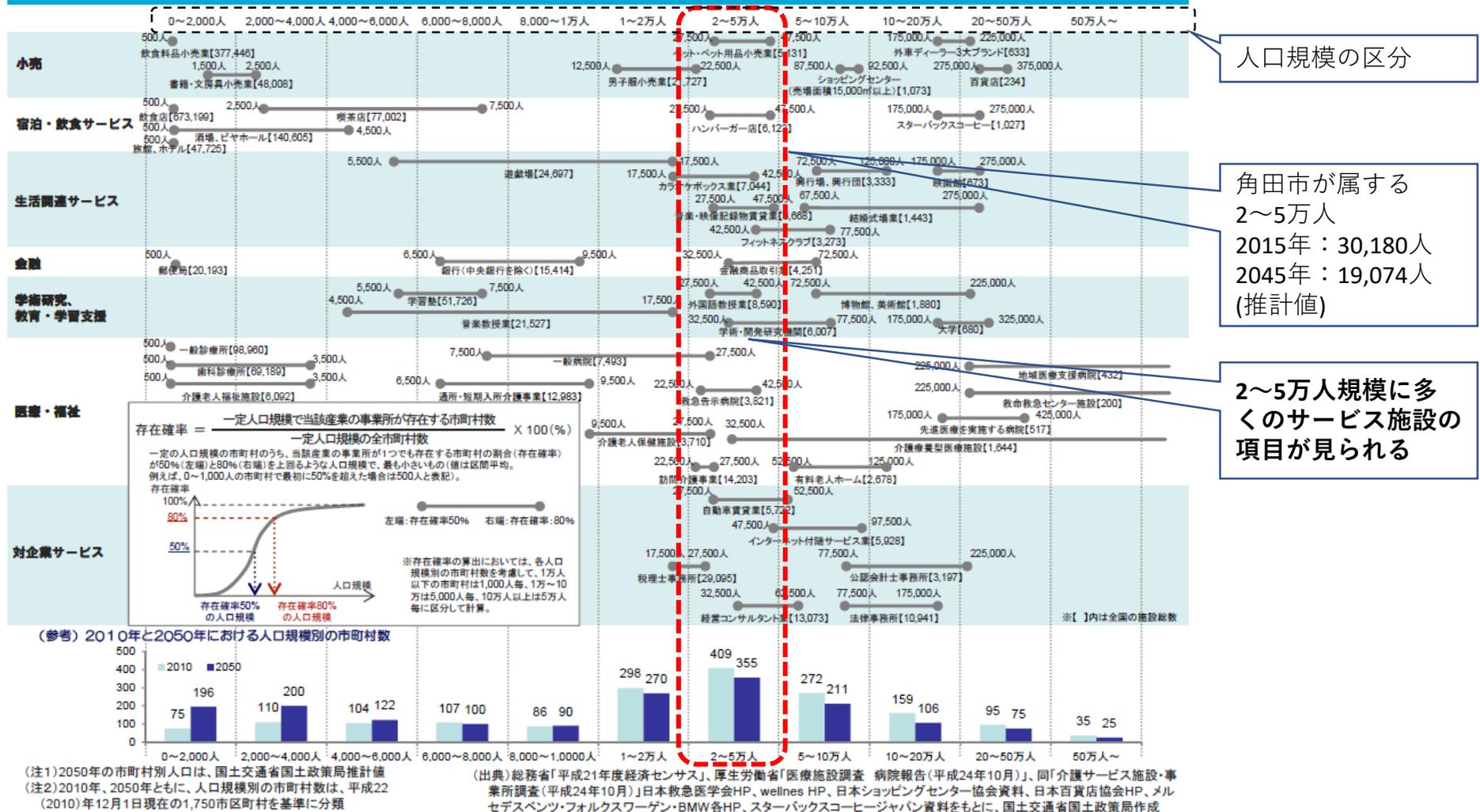


角田市第4次行財政集中改革プラン案より引用

・角田市の納税義務者は平成9年(1997年)をピークに減少を続け、今後の生産年齢人口の減少と共にさらなる減少が見込まれる。税収減等により行政サービスの低下や社会インフラ老朽化に対応できず、生活利便性が低下する。

要因分析 事象① 「角田市に住み続けたくない若者」

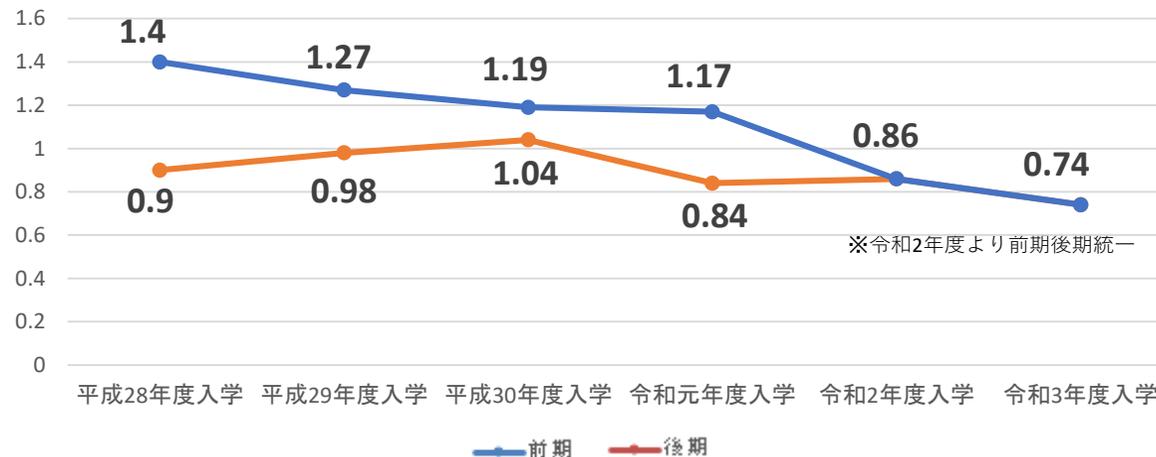
サービス施設の立地する確率が50%及び80%となる自治体の人口規模 国土交通省



平成26年国土交通白書1章2節より抜粋

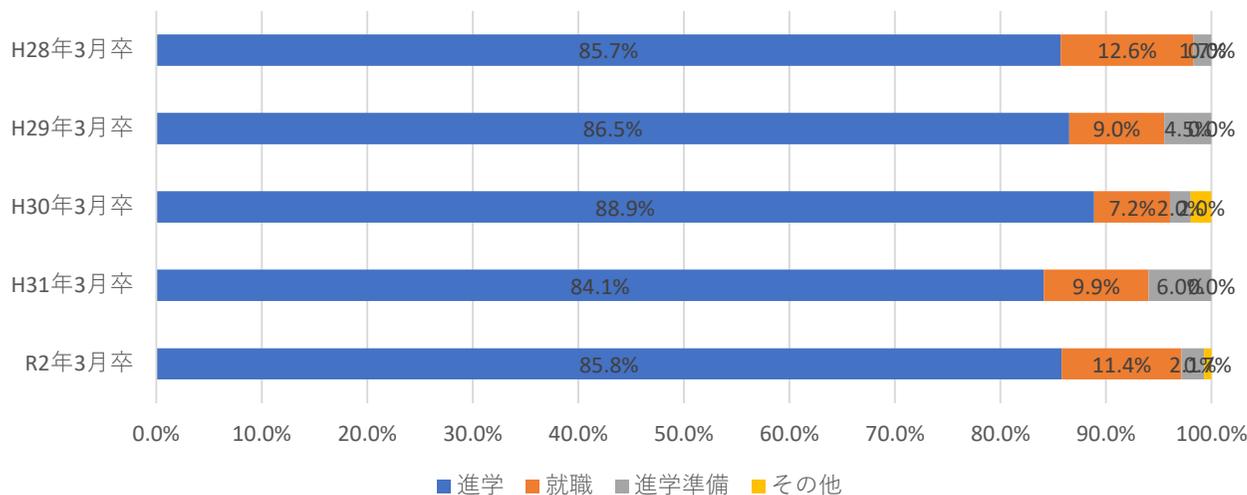
- ・生産年齢人口の低下は生活関連サービスにも影響し、その縮小から就業機会や雇用が失われる恐れも考えられる。
- ・特に2万人を境にサービス提供の格差が見え始める。

○角田高校の受験倍率



○角田高校の進学・就職

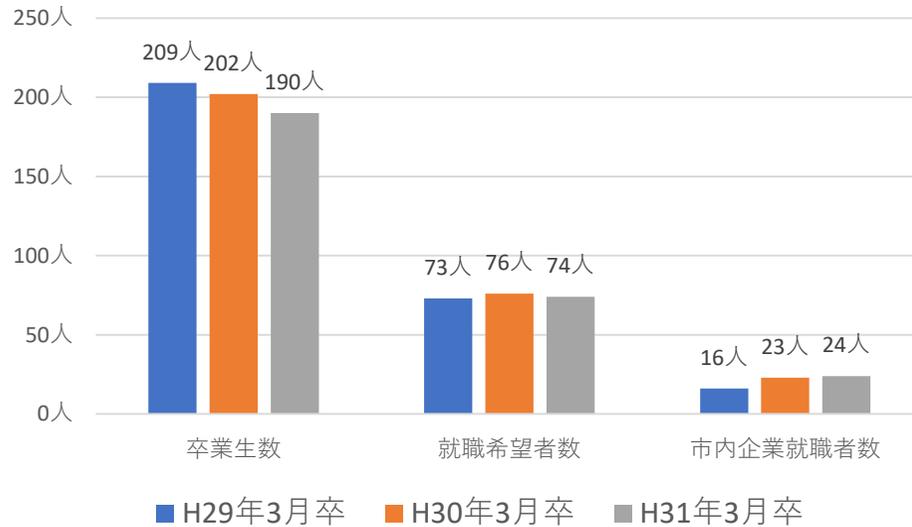
宮城県HP「公立高校入試関係」より



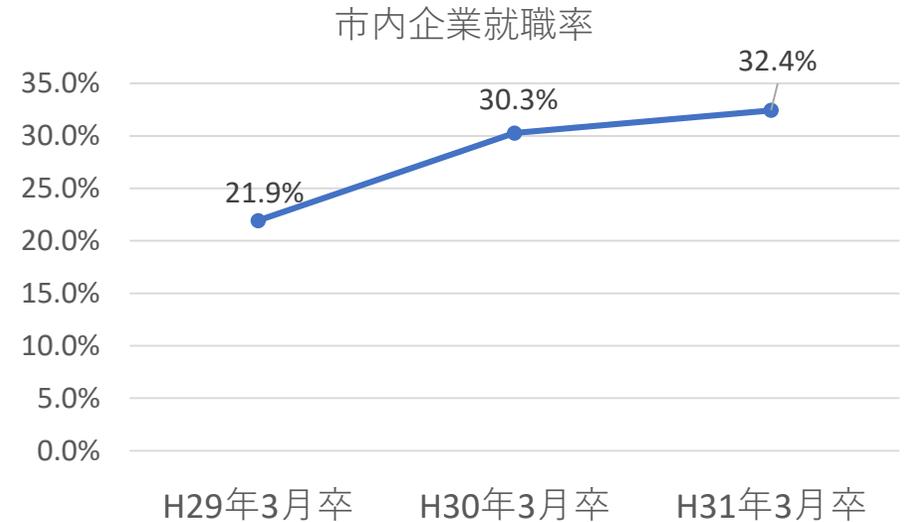
角田高校HP「角高生の進路」より

角田高校の倍率は低下しており、特にここ2年は1倍を下回っている。卒業生の8割以上が進学する。

○角田市在住の高校生の就職状況



○角田市在住の高校生の市内企業就職率



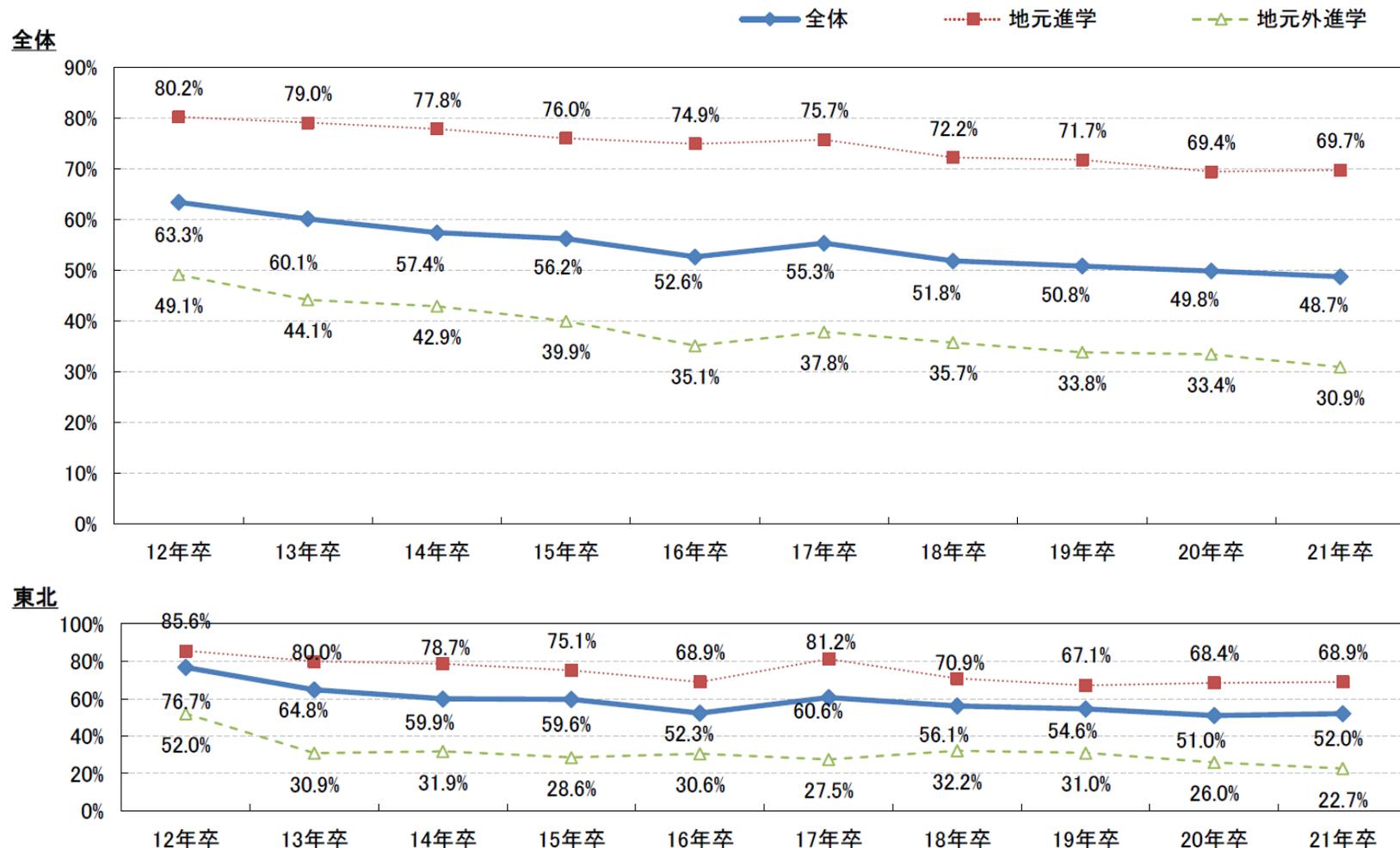
角田市商工観光課「就職状況調査」より

調査対象校：角田高校、村田高校、柴田農林高校、蔵王高校、柴田高校、大河原商業高校、名取高校、名取北高校、伊具高校、白石高校、白石工業高校、亶理高校

角田市在住の高校生の就職希望者のうち、市内企業に就職しているのは20～30%程度であることが分かった。また、ここ3年の傾向だが市内企業就職率が若干増加していることが分かった。

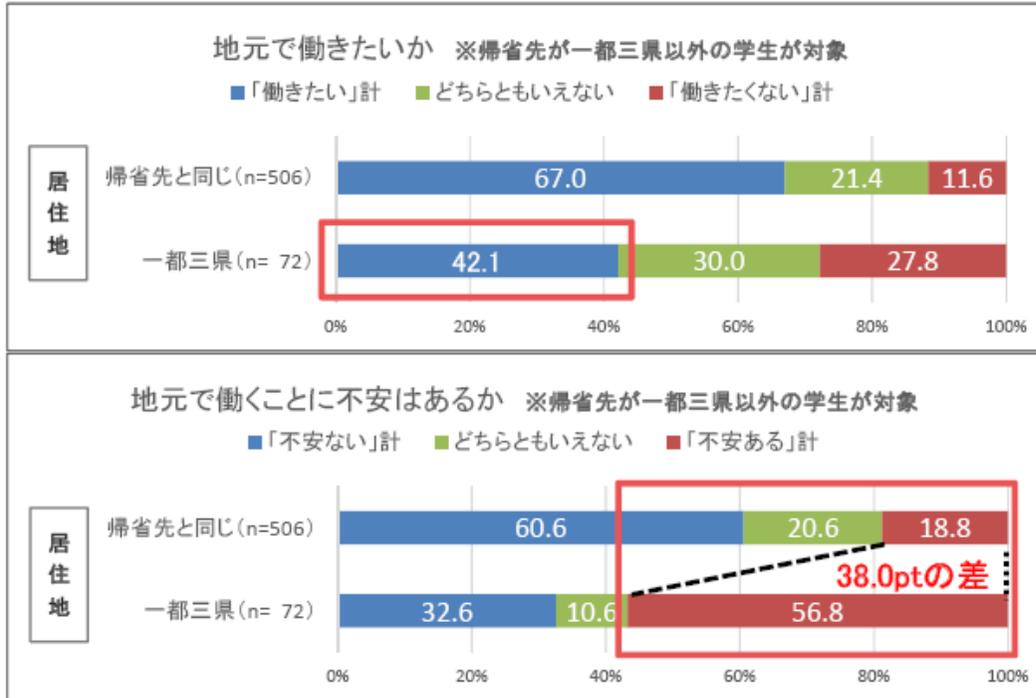
要因分析 事象② 「進学で流出し、戻ってこない若者」

【地元就職希望割合】



「マイナビ2021年卒大学生Uターン・地元就職に関する調査」より

大学生の地元就職意向は、全国的に低下している。特に、地元外進学をした人の地元就職意向が低下している。東北地方で見ると、地元外進学をした人の地元エリア就職希望が全国平均よりも低いことがわかる。



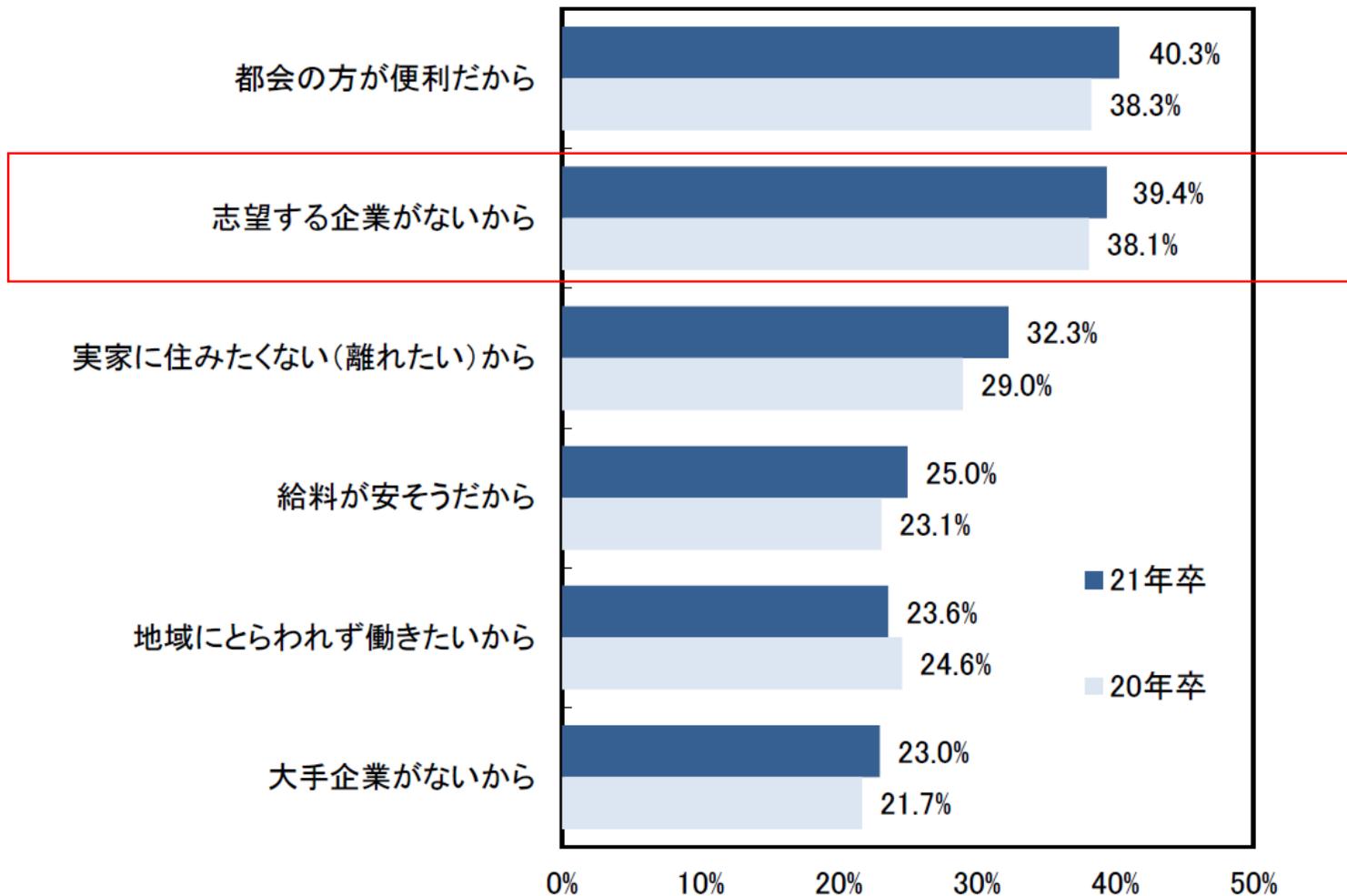
学生のコメント 「地方で働きたい理由」と「地方で働くことへの不安」とは？

居住地	帰省先	性別	地方で働きたい理由	地方で働くことに不安を感じる理由
東京都	秋田県	男性	地方出身なので。東京にいる必要性をそれほど感じないから	職が少なく、人も少ないから
神奈川県	茨城県	男性	慣れ親しんだ土地で働くことに憧れがあるから	待遇面がいい企業ばかりではないから
東京都	福岡県	男性	東京とは違う魅力があり、課題も多いが可能性も十分あるから	経済、ビジネス面で不便な点があることは確かだから
東京都	長崎県	女性	地方でしかできない仕事があるだろうから	生活の利便性の面で不安があるから
埼玉県	愛知県	女性	新天地で何もかも0からスタートさせることに楽しみがあるから	頼れる人が少ないから
埼玉県	山形県	女性	家族や友人がいることで安心できる	志望業種がないから

RECRUIT就職みらい研究所「就職プロセス調査」より

・卒業後、地元で働きたいと思っているが、不安に思っている学生が多く、地元以外の進学地にいることで不安感が一層高まる傾向にある。また、「職が少ない」「志望業種がない」「頼れる人が少ない」などの不安がある。

【地元(Uターン含む)就職を希望しない理由 (上位5位抜粋)】



「マイナビ2021年卒大学生Uターン・地元就職に関する調査」より

上記の調査結果から「志望する企業がない」ということも地元就職を希望しない大きな理由であることがわかる。

○大学生の志望業種ランキング

希望業種	順位	比率	希望業種	順位	比率
農林・水産	21	1.8%	クレジット・信販・リース・その他金融	37	0.7%
食品	1	11.4%	生保・損保	17	2.2%
建設・設備関連	8	3.5%	不動産	18	2%
住宅・インテリア	5	3.9%	鉄道・航空	3	5.2%
アパレル・服飾関連	27	1.3%	陸運・海運・物流	30	1.2%
繊維・紙・パルプ	44	0.5%	電力・ガス・エネルギー	27	1.3%
化学・石油	16	2.5%	レストラン・給食・フードサービス	44	0.5%
薬品・化粧品	4	4.2%	ホテル・旅行	6	3.7%
ゴム・ガラス・セラミックス	47	0.3%	医療機関・調剤薬局	22	1.4%
鉄鋼・金属・鉱業	37	0.7%	福祉サービス	37	0.7%
機械	15	2.6%	フィットネスクラブ・エステ・理美容	48	0.2%
プラント・エンジニアリング	37	0.7%	アミューズメント・レジャー	27	1.3%
電子・電気・OA機器	10	3.3%	冠婚葬祭	37	0.7%
自動車・輸送用機器	11	2.9%	専門・その他サービス	35	0.8%
精密・医療機器	22	1.4%	コンサルティング・シンクタンク・調査	22	1.4%
印刷・事務機器・日用品	30	1.2%	人材サービス（派遣・紹介）	34	0.9%
スポーツ・玩具・ゲーム製品	13	2.7%	教育	22	1.4%
その他メーカー・製造関連	30	1.2%	ソフトウェア・情報処理・ネット関連	2	7%
総合商社	19	1.9%	ゲームソフト	37	0.7%
商社	12	2.8%	通信	33	1.1%
百貨店・スーパー・コンビニ	35	0.8%	マスコミ（放送・新聞）	22	1.4%
専門店	44	0.5%	マスコミ（出版・広告）	13	2.7%
銀行・証券	7	3.6%	芸能・映画・音楽	20	1.8%
信金・労金・信組	37	0.7%	官公庁・公社・団体	9	3.4%

「マイナビ2021年卒大学生就職意識調査」より

大学生の希望業種として、「食品」、「ソフトウェア・情報処理・ネット関連」、「鉄道・航空」、「薬品・化粧品」、「住宅・インテリア」が希望上位であることが分かった。

○大卒求人企業数（本社所在地ベース）

宮城県

求人社数	100人未満	100人以上 1000人未満	1000人以上	合計
メーカー	37	27	4	68
サービス・インフラ	60	70	11	141
商社(総合・専門)	11	33	2	46
銀行・証券・保険・金融	1	0	2	3
情報(広告・通信・マスコミ)	9	4	0	13
百貨店・専門店・流通・小売	5	3	3	11
IT・ソフトウェア・情報処理	21	8	1	30
全業種計	144	145	23	312

構成比	100人未満	100人以上 1000人未満	1000人以上	合計
メーカー	11.9%	8.7%	1.3%	21.8%
サービス・インフラ	19.2%	22.4%	3.5%	45.2%
商社(総合・専門)	3.5%	10.6%	0.6%	14.7%
銀行・証券・保険・金融	0.3%	0.0%	0.6%	1.0%
情報(広告・通信・マスコミ)	2.9%	1.3%	0.0%	4.2%
百貨店・専門店・流通・小売	1.6%	1.0%	1.0%	3.5%
IT・ソフトウェア・情報処理	6.7%	2.6%	0.3%	9.6%
全業種計	46.2%	46.5%	7.4%	100.0%

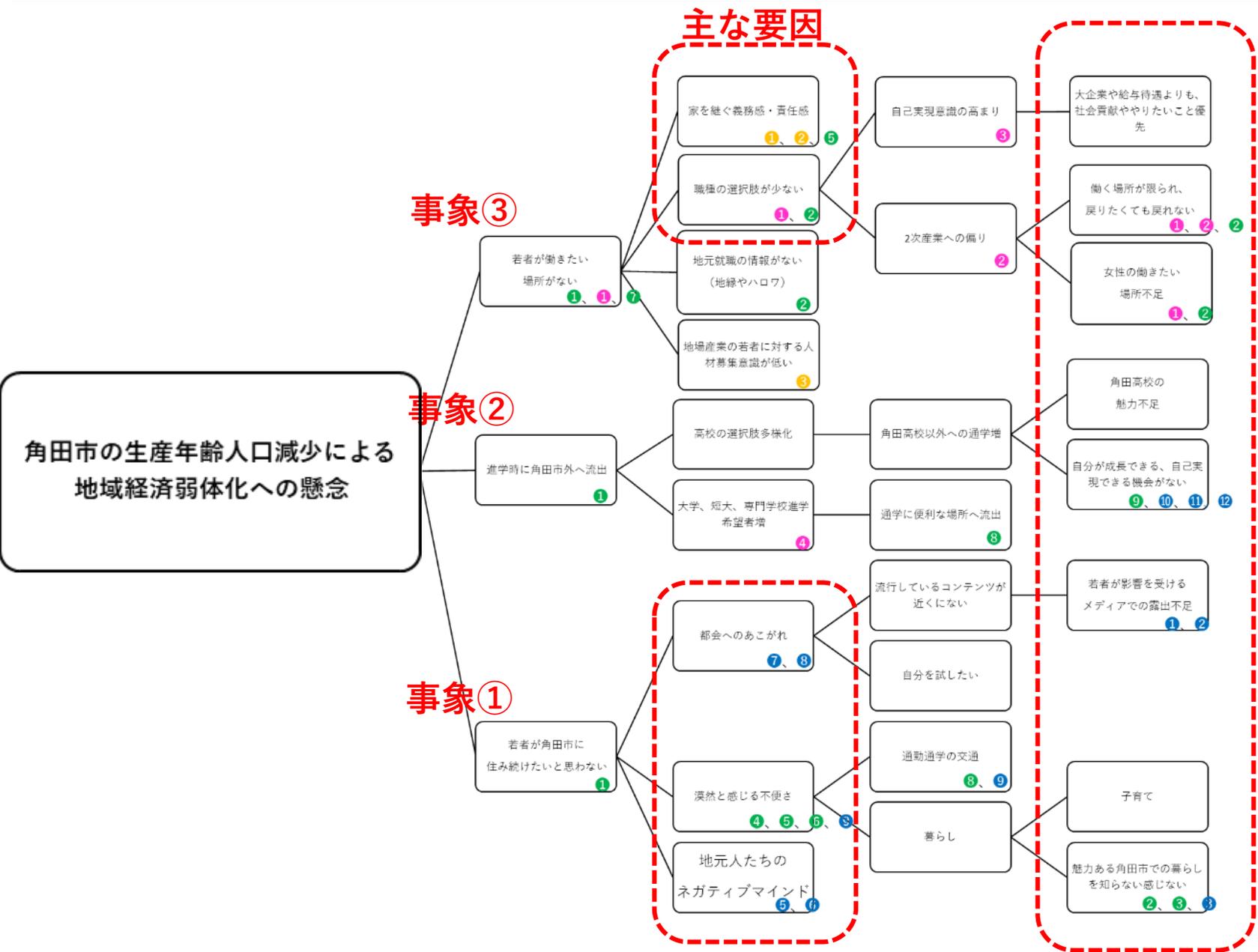
東京都

求人社数	100人未満	100人以上 1000人未満	1000人以上	合計
メーカー	421	837	529	1787
サービス・インフラ	1268	1115	465	2848
商社(総合・専門)	222	348	112	682
銀行・証券・保険・金融	29	108	96	233
情報(広告・通信・マスコミ)	306	195	48	549
百貨店・専門店・流通・小売	95	109	80	284
IT・ソフトウェア・情報処理	896	535	124	1555
全業種計	3237	3247	1454	7938

構成比	100人未満	100人以上 1000人未満	1000人以上	合計
メーカー	5.3%	10.5%	6.7%	22.5%
サービス・インフラ	16.0%	14.0%	5.9%	35.9%
商社(総合・専門)	2.8%	4.4%	1.4%	8.6%
銀行・証券・保険・金融	0.4%	1.4%	1.2%	2.9%
情報(広告・通信・マスコミ)	3.9%	2.5%	0.6%	6.9%
百貨店・専門店・流通・小売	1.2%	1.4%	1.0%	3.6%
IT・ソフトウェア・情報処理	11.3%	6.7%	1.6%	19.6%
全業種計	40.8%	40.9%	18.3%	100.0%

RECRUIT就職みらい研究所「進路選択行動・意向から見る若者の地方還流・地元定着の可能性」より

東京都と宮城県で求人社数が大きく異なるのは当たり前だが、構成比でも「大手」・「金融」・「情報」・「IT」などの求人が少ないことがわかる。



クロスSWOT分析

要因分析から、強み・弱み・機会・脅威を踏まえ、環境変化に対応した既存資源の最適活用を図る

強み(内的要因)

- A 地域経済をけん引する2次産業...RESAS
- B 高水準の農業の出荷額...RESAS
- C ふるさと納税寄付額県内トップ
- D “JAXA”など研究技術機関の存在
- E 道の駅開業等による交流人口の拡大

弱み(内的要因)

- a 生産人口の縮小と老年人口拡大...RESAS
- b 所得や消費・投資の流出...RESAS
- c 農業経営体産出額の低調（全国比45%）...RESAS
- d 製造業や小売業の事業所数減少傾向...RESAS
- e 児童数減少による市内学校の統廃合

機会(外的要因)

- 1 SDGsを踏まえた持続的発展
- 2 技術革新による地域課題解決への期待
- 3 ICTやSNSによるコミュニケーションの変化
- 4 テレワークや多拠点居住など働き方暮らし方の変化

積極的戦略

- C.E-3 角田市に囲い込み、関係人口戦略
- B-2.4 新しい付加価値創造
- A.D-1 オープンイノベーションによる産業基盤創出

改善戦略

- a-2.4 課題解決の現場として外部事業流入促進
- c.d-2.3 既存産業のアップデート
- a.e-1.3 教育の魅力化
- d.e-2.3 公共不動産及び空き家利活用

脅威(外的要因)

- I 人口減少・超高齢化・少子化の進展による社会ニーズの変化
- II 技術革新による産業構造の変化
- III 大規模災害や感染症問題の発生
- IV 財政制約の基での施策推進

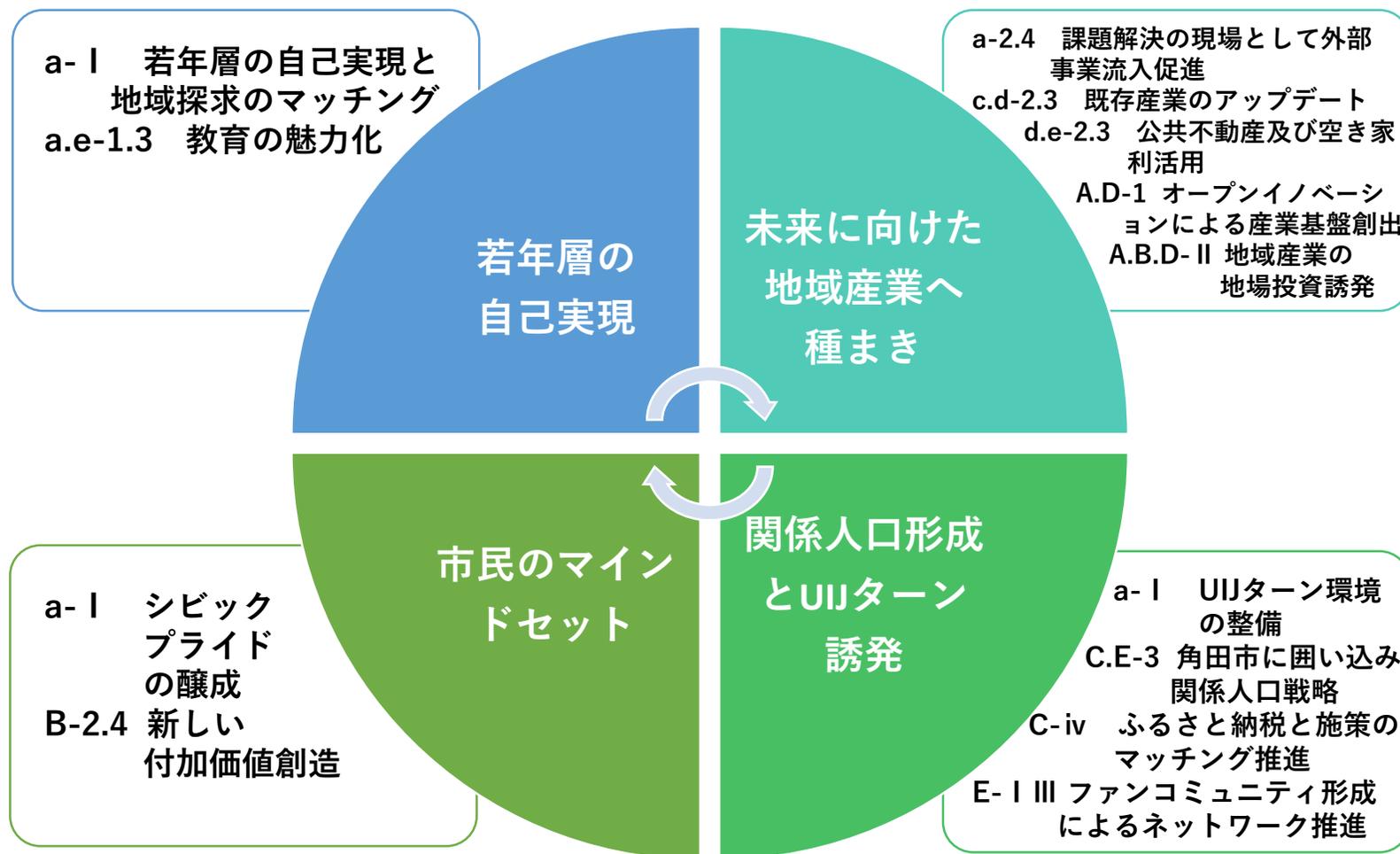
差別化戦略

- A.B.D-II 地域産業の地場投資誘発
- C-IV ふるさと納税と施策のマッチング推進
- E-I III ファンコミュニティ形成によるネットワーク推進

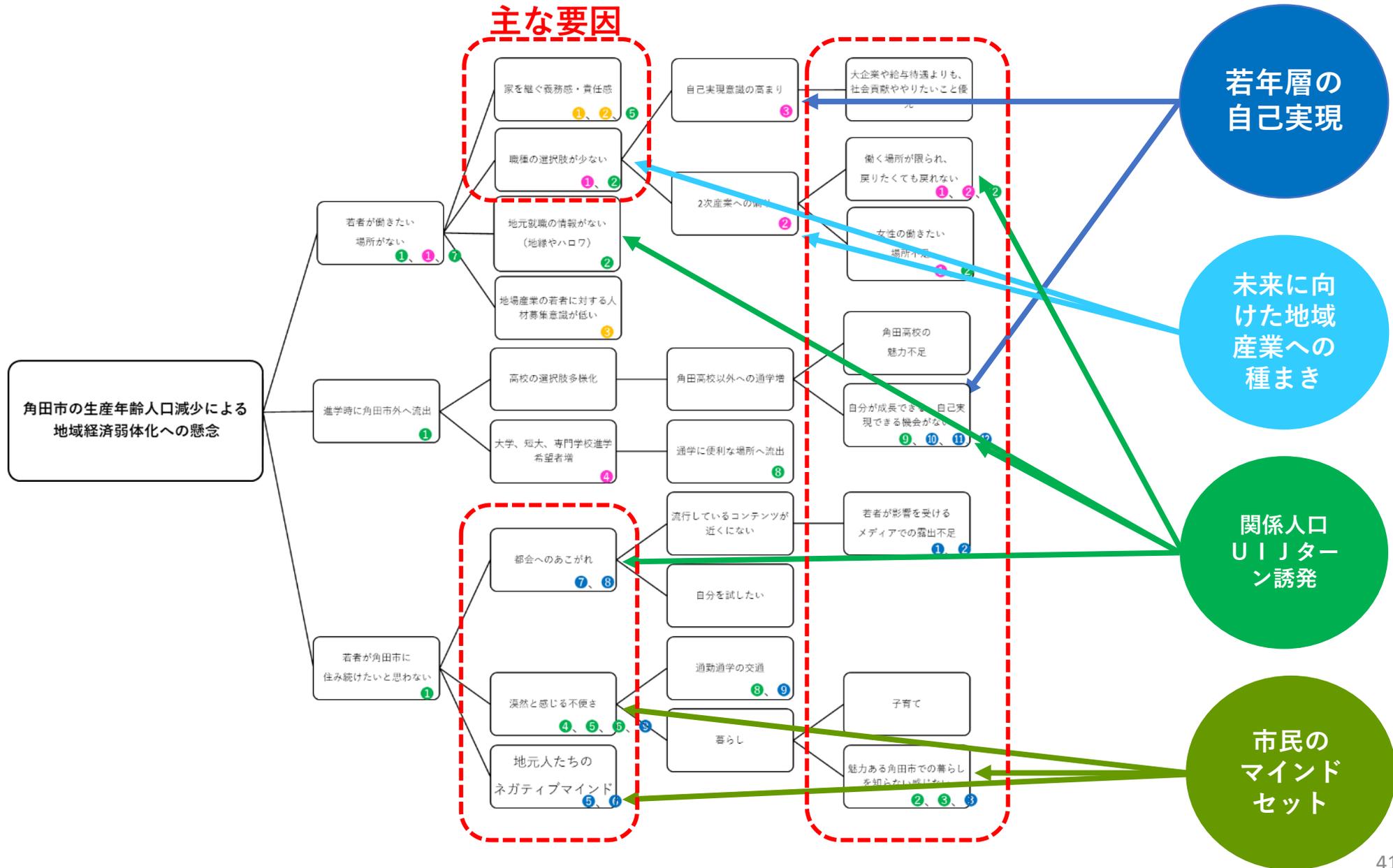
致命傷回避

- a-I 若年層の自己実現と地域探求のマッチング
- a-I シビックプライドの醸成
- a-I UIターン環境の整備

若年層の満足度・定住意向上昇による、地域経済活性化



注力テーマとロジックツリーの関係図



かくだワークショップとは

令和4年度となる角田市長期総合計画を策定するにあたり、角田市民の皆様、角田市にお勤めの方、角田市に縁のある方を対象から10年間の角田市のまちづくりの指針としたワークショップ。

30年後の角田の将来像を自由に描く場として、令和3年1月～2月に計4回開催、参加延べ人数181人。

RESASから導き出した角田市の現状分析を共有！！



共有の結果（良かった点、気づいた点）

RESASから導き出した角田市の現状分析について、人口や産業などを中心にかくだワークショップ参加者に発表した。

角田市の将来像を話し合う上で“なんとなく”感じていることが、数字やグラフで明らかになることにより具体的な議論に繋がった。

説明には分かりやすく要点を説明するよう心掛けたが、中には用語等説明不足があったことは否めない。誰もがRESASのようなオープンデータを駆使して、まちの将来を議論できる場づくりはとても重要なことに感じた。

取り組んでみて感じたこと

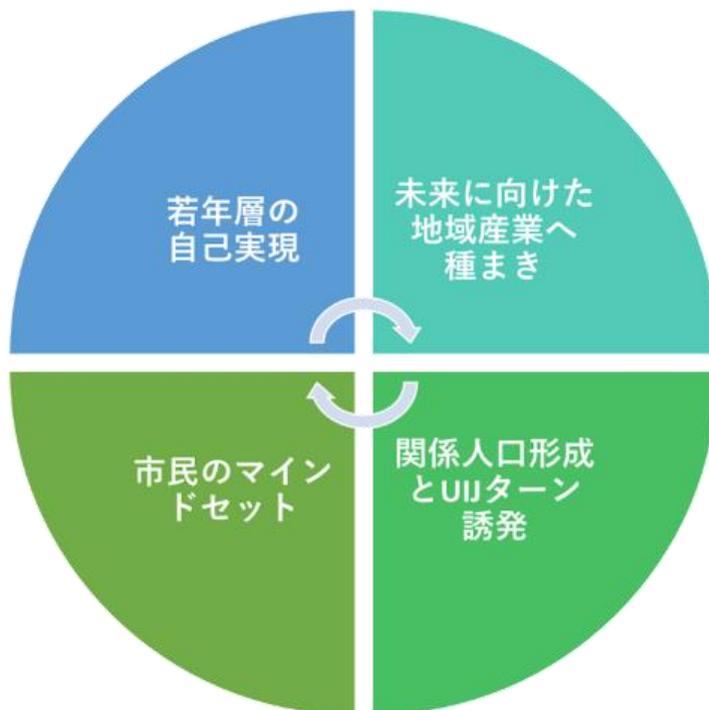
- 自分が欲しいデータや項目にたどり着くまでが慣れるまで難しいと感じた。
- いままで感じていたことがRESASを用いてデータ分析することで根拠のあるものになった。
- 情報の収集・比較・分析など、今回学んだ知識や手法を基に業務に活かしていきたい。
- データは常に変化するもの。上書き作業や経年変化など、その分析もまた必要がある。
- 「なんとなく」がデータ等ではっきりすると考えや意識、行動も変わるように思う。
- RESASや各種データから課題設定や問題の本質に掘り下げる作業が苦労した。

今後に向けて

分析を踏まえた打ち手の検討を継続して行う。

- 産業と教育の連携による若年層の自己実現の場の醸成
- 産業と地域の連携によるシビックプライドの醸成
- ふるさと納税や自治体のファンコミュニティ先進地へのヒアリングを通じた関係人口戦略の構築
- 住みたいと思うまちへのヒアリングを通じた定住人口の増加に向けた戦略の構築

など



取り組みのスケジュール

2020年

9月15日：RESASを活用した施策立案プロジェクトチーム任命（以下PTと略）

10月2日：RESAS活用研修会の実施

10月7日：PT打合せ

【作業】各種調査関係読み込み
RESASによる現状分析開始

10月30日：PT打合せ

11月11日：PT打合せ（作業共有、分析進捗確認）

11月20日：PT打合せ（現状分析精査、SWOT分析）

【作業】現状分析から角田市の強み弱み機会脅威まとめ
SWOT分析から施策の種検討

11月27日：PT打合せ（SWOT分析集約）

12月3日：PT打合せ（注力テーマの検討）

【作業】仮説に基づくロジックツリー
なぜなぜ分析
市民ワークショップに向けた現状分析整理

2021年

1月8日：PT打合せ（なぜなぜ分析まとめ）

【作業】要因分析に対する定量定性エビデンスの収集

1月13日：かくだワークショップ①

1月20日：PT打合せ（現状分析資料説明、PT進捗報告）

1月25日：RESASによる現状分析発表リハーサル

1月27日：かくだワークショップ②

RESASによる現状分析発表

2月10日：かくだワークショップ③

2月15日：PT打合せ

【作業】ロジックツリー集約及び要因分析

2月24日：かくだワークショップ④

2月26日：PT打合せ（かくだワークショップ振り返り）

【作業】現状分析、課題、仮説、要因分析、テーマ整理

3月10日：PT打合せ（成果発表資料精査）

3月12日：長期総合計画策定本部・幹事会議にて成果発表

3月26日：長期総合計画審議会にて成果発表

角田市総務部まちづくり政策課
〒981-1592 宮城県角田市角田字大坊41
TEL：0224-63-2112